

— V —

地域別構想 — 地域別まちづくりの方針



Fukushima City

1. 地域別構想（地域別まちづくり）の位置づけ

(1) 地域別構想の位置づけ

広大な市域を有する本市は、特色ある固有の歴史や文化を持つそれぞれの地域が合併して形成されたまちです。

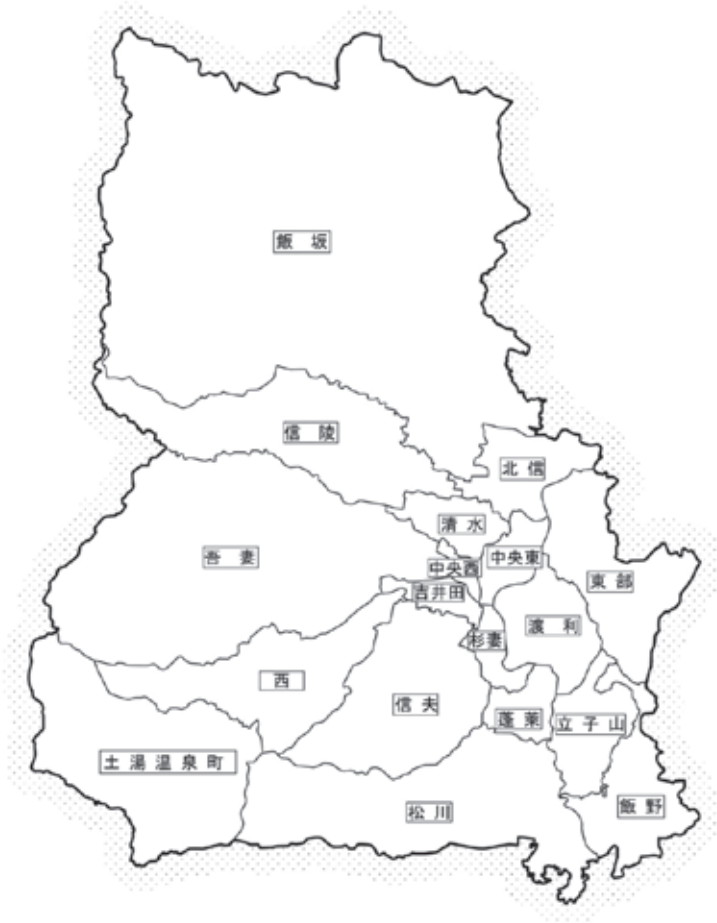
地域別構想は、全体構想が全市的な観点から都市づくりの方針を位置づけるのに対して、各地域の特性や課題を踏まえた特色あるまちづくりの推進を図るため、位置づけるものです。

地域別構想の策定にあたっては、支所を中心とする18の地区で、自治振興協議会や町内会、そのほかの地域活動団体などによる地区のまちづくり懇談会を開催し、地域の特性や課題、都市計画に関するまちづくりの方向性についての意見を踏まえ、とりまとめました。

これにより、地域住民・企業・行政が協働して、各地域の主要課題や将来像、まちづくりの方針を共有しながら、愛着と誇りをもてる地域づくりを進めていきます。

(2) 地域区分の設定

地域区分については、各地域のつながりや特性等を踏まえつつ、行政区域（支所所管区域）を基本に、以下の18の地区（支所管内16地区と本庁管内2地区）に区分・設定します。



2. 中央東地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、福島駅の東側に広がる本市の中心市街地であり、古くから政治・経済・文化・教育等の中心地として、また東北本線や奥羽本線等の鉄道や、国道4号・国道13号等をはじめとする道路交通の要衝として栄えてきた地区です。

県都として県庁などの行政機関や裁判所・日本銀行などの国の関係機関、新聞・テレビ局等の報道機関が立地するとともに、高校・大学、県文化センター・音楽堂・公会堂、中央学習センター、図書館、こむこむ、アオウゼなどの教育文化施設をはじめとする公共公益施設や百貨店、銀行本店、競馬場、総合病院、商店・飲食店などの商業業務施設が集積しています。

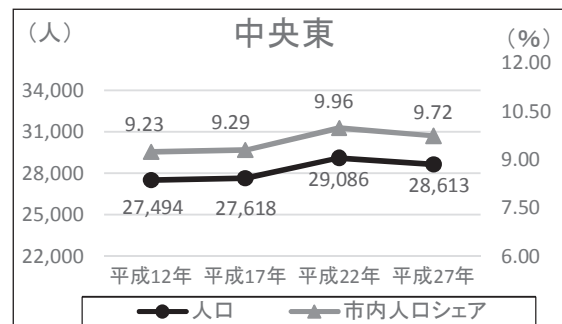
地区の北側には、四季折々に彩りを見せ本市のシンボルともなっている信夫山があり、周辺には阿武隈川や荒川・松川が流れるなど、自然と身近に接することができます。

福島藩の城下町として、御倉邸、岩谷観音など多くの名所旧跡や歴史資源があります。

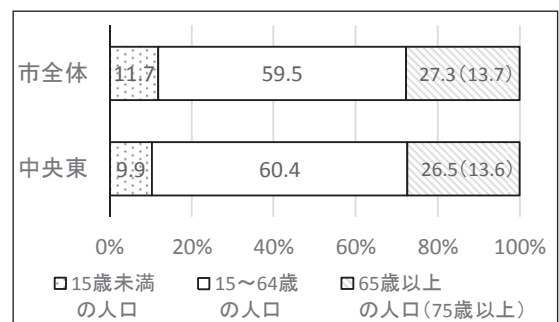
なお本地区は、市内でも人口密度が高い地区ですが、モータリゼーションの進展や大規模施設の郊外移転、市街地の外延化による空洞化などにより、中心市街地の活力の低下が進んでいます。



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）



旧奥州街道の歴史と周辺の街並み
「景観100選より」

(2) 地域の主要課題

●中心市街地の一層の活性化が必要です

本地区においては、中心市街地活性化の取組みが進められていますが、県都福島市の顔として広域的にも魅力ある都市機能の充実や、低未利用地・空き店舗などを活かした商業・業務環境の再整備、さらには福島駅と周辺の商店街や様々な公共施設などを面的に結ぶ公共交通システムの確立などによる回遊環境の充実や景観誘導、世代を超えた交流促進などにより、中心市街地における都市活力の活性化が求められています。

中心市街地の機能を支える交通環境として、道路整備や歩行者・自転車の安全対策や利便性の向上が必要となっています。

また、東日本大震災時に福島駅の東西自由通路が通行止めとなり、地区が分断されるなど、交通連絡機能の脆弱性が明らかとなりました。

そのため、駅西口周辺地区との連携強化を図るとともに、交流や回遊性を持たせるため、歩行者や自転車の動線にも配慮した、安全で利便性の高い連絡道路網の整備・拡充による東西連携の強化が望まれています。

●居住環境の充実が必要です

本地区は若者や中堅ファミリー層の地区外流出などにより、人口減少とともに少子高齢化の進行が著しく、都市活力の停滞やコミュニティの維持が懸念されています。このため、高齢者や若者などの多様なニーズに対応した住宅の供給、生活圏などの計画的・効率的な除染などによる住環境の改善や日常生活の利便機能の整備などにより、居住の促進を図ることが求められています。

●自然や歴史的資源等の保全とまちづくりへの活用が必要です

本地区には、市のシンボルともいえる信夫山や、本市を代表する河川である阿武隈川・荒川・松川・祓川などの豊かな水と緑の自然が身近にあります。アクセスが限られるなど、十分に活用されていない状況にあります。また、地区内には、本市の発展を物語る寺社、蔵等の歴史資源も残されているため、これら固有の自然資源や歴史資源を有効に活用して、個性的で魅力的なまちづくりを進める必要があります。

(3) 地域の将来像

- 県都福島市の顔として、市民が誇りを持てる品格のあるまち
- 老若男女が安全に安心して暮らせるまち
- 市民と企業・商店街の方々などが関わり合うとともに、観光客、ビジネスマンなど多くの人でにぎわうまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 本市の中心市街地として、また中心拠点として、土地区画整理事業、暮らし・にぎわい再生事業、優良建築物等整備事業などにより、都市施設や建築物等の計画的・一体的な都市基盤の整備や土地の高度利用を促進します。また、既存ストックを有効に活用し、民間活力を導入しつつ、商業、業務、文化、情報、行政、医療、介護福祉、教育、コンベンション、交流、情報発信、娯楽、まちなか居住等の都市機能の充実と、交流人口の拡大を図ります。
- 福島駅前通りの商店街については、老朽化しているアーケード撤去と併せて、快適・安全でかつゆとりある歩行環境の形成を図ります。また、市民・民間企業・まちづくり組織等と連携を図りつつ、空き地や空き店舗の有効活用を図りながら、沿道に面した店舗などと道路空間が一体となった統一感のある街なみ景観の整備やにぎわい創出を図るなど、歩行者最優先の魅力的なシンボルストリートの形成を図ります。
- 県立医科大学の学部増設などによる中心市街地の高次教育の機能向上を促進します。
- 信夫山南側の一帯においては、音楽堂、文化センター、美術館・図書館等の集積を活かして、都市計画道路太平寺岡部線や祓川の整備とともに、魅力的な住環境の形成を図ります。
- 阿武隈川・荒川・松川沿岸の住宅地については、水害に強いまちづくりに努め、親水性の確保などリバーサイドの特色を活かしたうるおいのある住宅地の形成を図ります。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導・空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 中央西地区との連携を高めるため、両地区を結ぶ新東西自由通路の有効な整備方針の検討を行うとともに、都市計画道路矢剣町渡利線などの整備により、歩行者・自転車ネットワークの形成を推進します。
- 市街地内の骨格道路として、都市計画道路太平寺岡部線・曾根田町桜木町線・杉妻町早稲町線などの整備を図ります。
- 福島駅前通りについて、道路空間の再編により、快適・安全でかつゆとりある歩道整備を促進します。
- 暮らし・にぎわい再生事業などの面的整備に合わせた周辺道路整備などを進めるとともに、日常生活を支える生活道路については、緊急時の対応や防災性にも配慮し、狭隘道路の解消や歩行者・自転車の安全対策を推進します。
- 自転車については、自転車ネットワーク計画に基づく自転車専用通行帯の整備や、レンタサイクル事業など、安全で利用しやすい自転車利用環境の充実を図ります。
- 鉄道・バスなどの公共交通機関の利用を促進するため、駅舎やバス停・車両等の交通施設のバリアフリー化や交通システムの充実を図ります。

V 地域別構想 — 地域別まちづくりの方針

③ その他の方針

- 四季折々の風情をみせる信夫山や歴史資源の保全と活用を図りつつ、花いっぱい運動や環境美化など、福島市の顔としてふさわしい都市の景観形成を図ります。また、既存の公共施設等の利用促進とともに、それらを結ぶ回遊ルートの充実を図ります。
- 水と緑の軸となる阿武隈川、荒川、松川については、良好な自然環境を保全するとともに、ふるさとの川としての整備やサイクリングロード整備などによる魅力化促進や、河川敷の運動公園としての機能充実を図ります。
- 公園・ポケットパークなどの整備や道路・公共施設などの緑化を推進します。
- 小・中学校などの避難所・公共施設や建築物の耐震化・不燃化を促進するとともに、飲料水兼用耐震貯水槽の設置などにより、災害に強い安全な市街地形成を図ります。
- 日照・通風等に配慮しつつ、多様な都市型住宅の供給を図り、商店街等においては、低層階に商業・業務系施設を配置した都市型中高層住宅などの供給を誘導します。また、医療・福祉施設の計画的立地や人にやさしいまちづくりを促進します。
- 市役所など公共施設の整備については、市民ニーズ、中心市街地活性化への貢献、周辺の土地利用や交通アクセスの状況、他の核的施設との連携、投資効果など、総合的な判断のもと、施設の適切な維持管理・有効活用を図るため、配置・整備内容などについての検討を進めるとともに、除染の進捗を踏まえつつ、新庁舎西棟の整備について検討します。また、小学校などの余裕教室の利活用を図ります。
- 衛生処理場や堀河終末処理場については、維持管理の効率化を図るため適切な整備を検討していきます。



パセオ470の七夕祭り
「景観100選より」



祓川緑道と周辺の街並み
「景観100選より」



ラコバ福島



3. 中央西地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、福島駅西側に広がる地区であり、ほぼ全域が市街化区域に指定されています。

本地区には、農道沿いに形成された住宅地が存在しており、駅周辺には鉄道への近接性を利用して大規模工場が点在していました。しかし、東北新幹線の開業に伴う駅西口の開設を機に、駅周辺では工場跡地を利用した再開発等により、産業交流プラザ・図書館・観光物産館機能を備えた複合施設コラッセふくしまをはじめ商業・業務・サービス機能の集積が進み、市の新たな玄関口として、また、中心市街地の一部を構成する地区として整備が進められています。

西部においても土地区画整理事業による新しい住宅地の形成が進み、国道13号福島西道路沿道においては商業的土地利用が活発化しています。

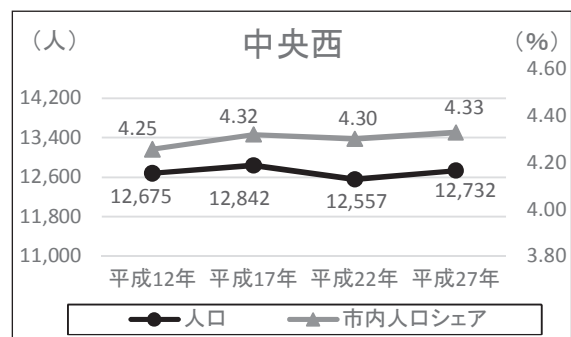
地区の南端を流れる清流荒川は、市街化が進む本地区の中で、貴重な自然空間であるとともに、市を代表する河川でもあり、市民の身近なレクリエーションの場として親しまれ利用されています。



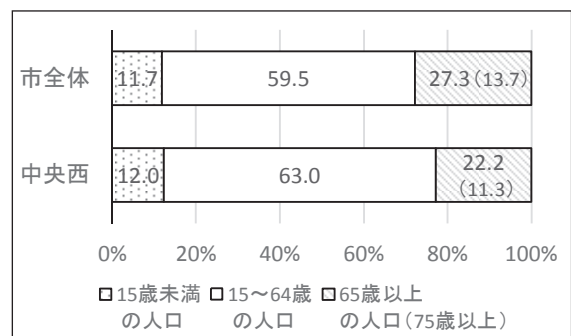
位置図



福島駅西口周辺と吾妻川



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

● 駅西口周辺地区の都市機能の充実が必要です

駅西口周辺地区は、駅東口周辺地区とともに市の中心市街地を構成する地区として複合施設コラッセふくしまやコンベンション機能の集積を活かしつつ、都市機能の充実やにぎわいの強化を図り、県庁所在地として福島の復興を力強く牽引するための地域活性化が求められています。

● 駅東口周辺地区等との連絡強化が必要です

東北本線によって隔てられている駅東口周辺地区とは、あづま陸橋や西町跨線橋などで結ばれていますが、交通需要に対して充分とは言えない状況にあり、朝夕のラッシュ時にはいずれの路線も交通渋滞がみられます。また、東日本大震災時に福島駅の東西自由通路が通行止めとなり、地区が分断されるなど、交通連絡機能の脆弱性が明らかとなりました。

そのため、駅東口周辺地区との連携強化を図るとともに、交流や回遊性を持たせるため、歩行者や自転車の動線にも配慮した、安全で利便性の高い連絡道路網の整備・拡充による東西連携の強化が望まれています。

● 定住環境の充実が必要です

本地区は、中心市街地に近い住宅地の一つとして形成されてきましたが、旧来の農道等を利用した開発によるものであったため、土地区画整理事業等により整備された地区を除き、狭隘な道路などもみられ、生活道路の改良や幹線道路との円滑な接続、交通安全対策とともに、日常生活を支援する既存商店街の活性化が求められています。

また、人口減少とともに少子高齢化の進展が著しく、都市活力の停滞やコミュニティの維持が懸念されています。このため、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、高齢者や若者などの多様なニーズに対応した住宅の供給、住環境の改善や日常生活を支える機能の整備などにより、居住の促進を図ることが求められています。

● 荒川の保全と活用、公共施設等を活かした交流の活性化が必要です

本地区の南端を流れる清流荒川は、吾妻山系を背景に四季折々の表情を見せ、水遊びや魚釣りなどで市民に親しまれてきました。市街地に隣接した自然環境として保全を図るとともに、荒川運動公園や三河台学習センターなど、既存公共施設等を活かした交流活動の活性化を図っていくことが求められています。

(3) 地域の将来像

● 県都の西玄関口として、市民や観光客が行き交うにぎわいのあるまち

● 犯罪も事故もない安全・安心な暮らしやすいまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 駅西口周辺地区については、駅東口周辺地区と連携する中心市街地として、民間活力を導入しながら、商業・業務・サービス・コンベンションなど、都市機能の整備・充実を図るとともに、福島駅東西を結ぶ新東西自由通路等の整備による連携強化を図るなど、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを促進します。
特に、地区計画（再開発等促進区）においては、既存施設との連携やコンベンション機能の集積を生かし、相互利用の促進を図り、国際的な情報発信や交流促進に資する新たなにぎわい交流拠点施設の整備、交流イベント等の強化について、民間活力を生かした整備方向を検討していきます。
- 土地区画整理事業などの面的整備が実施済みの区域では、緑化や地区計画の活用などにより、ゆとりとうるおいのある良好な住環境の保全・形成を促進します。
- 駅南地区や腰浜町町庭坂線（庭坂街道）沿道などの既存商店街については、共同建替や住宅との合築等により、地域コミュニティに対するサービス機能の充実及び集積を誘導し、高齢社会を踏まえた身近な商店街としての活性化を図ります。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導・空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 主要幹線道路である国道13号福島西道路は、水と緑の軸として、沿道緑地の保全や機能充実を図ります。
- 主要幹線道路であり、緑の道としても位置づけられている都市計画道路太平寺岡部線の整備を図ります。
- 地区の骨格道路となる都市計画道路腰浜町町庭坂線や都市計画道路方木田茶屋下線などについて整備を促進します。
- 駅東口周辺地区との東西連携の強化をめざし、交通関連事業者等と連携しつつ、新東西自由通路の有効な整備方針や、多くの人が往来する便利で利用しやすい駅ターミナルとしての機能強化を検討していきます。
- 既成市街地においては、踏み切り・交差点の改良やバリアフリー化により、歩行者や自転車に配慮した道路整備に努めます。西口駅前広場については、鉄道・バスなどの交通結節点として、利用者の利便性に配慮した機能の充実を図ります。

③ その他の方針

- 緑の拠点である森合運動公園周辺地区は、スポーツ公園としての機能充実とともに、一盃森等の良好な自然環境の保全を図ります。
- 吾妻山を背景に四季折々の趣を楽しませてくれるふるさとの川・清流荒川は、水と緑の軸として、自然環境を保全するとともに、身近な親水・スポーツ・レクリエーション空間として利用促進を図ります。
- 地域の花いっぱい運動や環境美化活動に継続して取組むとともに、地域の祭りやイベントなどを通じて、交流活動の活性化を図っていきます。
- 駅西口周辺地区については、駅周辺の集客施設間の回遊性に留意しつつ、低未利用地の活用も含めて、県都福島の西玄関口にふさわしい、福島らしい風格のある景観づくりを誘導します。
- 三河台学習センターは、生涯学習機能の充実と施設の利用促進のため整備を図ります。

(2) 地域の主要課題

●安全・快適な定住環境の充実が必要です

本地区の道路は、既成市街地の大半が小規模な開発等により形成され、狭隘な箇所もみられることから、国道4号、国道114号と接続する東西方向の幹線道路などの整備や交通安全対策が必要です。

また、急傾斜地対策や局地的大雨に強いまちづくりが必要です。

●住環境の改善が必要です

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、既成市街地においては、残存農地・空き地などの低未利用地や空き家などの土地の活用も図りつつ、生活道路や身近な公園などの充実を図るなど、住環境の改善が必要です。

なお、都市近郊の田園地域などでは、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●自然や歴史資源を活かしたまちづくりが必要です

本地区には、観光の名所となっている花見山や市民に親しまれている弁天山・茶屋沼・十万劫山・大蔵寺などの多くの自然や歴史資源、ホタルやサワガニが生息する豊かな自然環境が見られます。

地域の象徴である花見山などの良好な資源の保全を図るとともに、これらの地区資源をまちづくりに活用し、住環境の魅力強化や周辺地区とのネットワーク化につなげていくことが必要です。

(3) 地域の将来像

「水と緑に花映るやすらぎと活力あるまち わたり」

- 豊かな自然環境と人が調和し、歴史を生かしたまち
- 災害や犯罪のない、やすらぎとふれあいのある住みよいまち
- みんなが助け合う明るく活力あるまち



花見山の色とりどりの花木



渡利春日神社参道
「景観100選より」

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

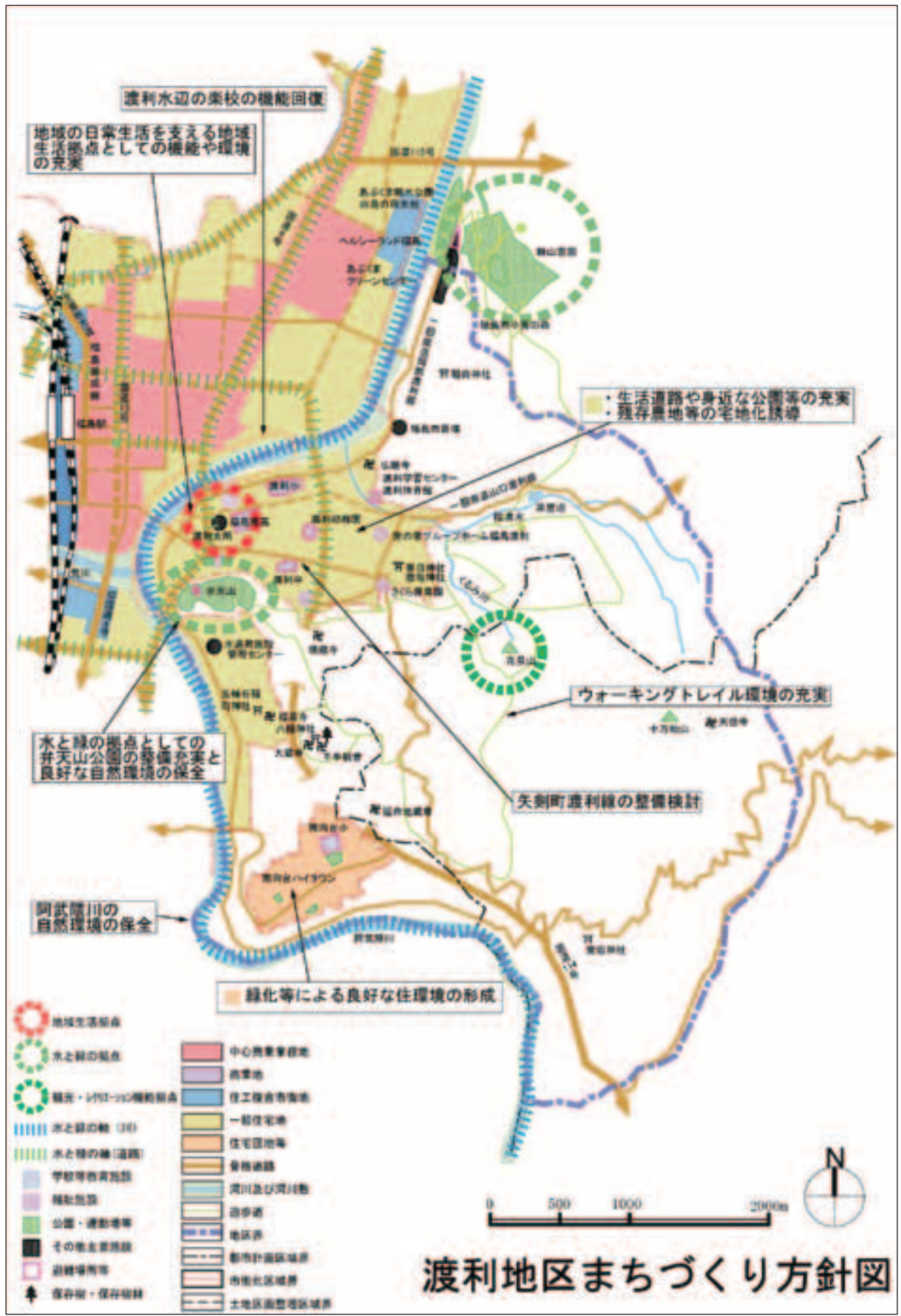
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 渡利支所周辺は、地域生活拠点として地域の日常生活を支える機能の集積を誘導するとともに、アクセス道路の充実を図ります。
- 計画的に整備された南向台ハイタウンなどの大規模住宅団地においては、周辺部の豊かな自然環境との調和に配慮し、緑化などによりゆとりある良好な住環境の形成を誘導します。
- 市街化調整区域や都市計画区域外においては、農地や山林などの自然環境を保全するとともに、生活道路や生活排水処理施設などの充実により、既存集落の住環境の改善を図ります。また、自然環境の保全や乱開発の防止などを行うため、都市計画区域の見直しを検討します。なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 地区の骨格となる一般県道岡部渡利線や都市計画道路矢剣町渡利線などの整備を図ります。
- 国道4号と国道114号をつなぐ東西方向の幹線道路網の整備充実を図ります。
- 通勤・通学の安全性や防災性向上のため、狭隘道路の解消など生活道路の改善や、自転車利用実態を踏まえた自転車利用環境の改善を図ります。

③ その他の方針

- 花見山および周辺について、原風景の適切な保全・環境整備を図るとともに、受入れ体制の充実や、花や農産物を活かした交流の促進を図ります。
- 緑の拠点である弁天山公園は、良好な自然環境を保全するとともに、公園の機能充実を図ります。さらに、花見山・茶屋沼・大蔵寺・瑞龍寺及び東部地区にある小鳥の森などの自然資源・歴史資源を活用しつつ、歩くことを通じた健康づくりや身近に自然や歴史と触れあえるウォーキングトレイル環境の充実を図ります。
- 阿武隈川及びその周辺においては、水と緑の軸として、自然環境の保全を図るとともに、サイクリングロードなどの充実やウォーキングトレイルとの連携を図ります。また、「渡利水辺の楽校」について、除染効果などを踏まえ、親水環境や交流・学習活動の回復に努めます。
- 渡利学習センターは、生涯学習機能の充実と施設の利用促進のため整備を図ります。
- 新斎場は、施設の老朽化と利用者の需要に対応するため早期整備を進めます。
- 地域における避難対策を進めるとともに、雨水排水施設などの整備や、くるみ沢などの土石流危険渓流における砂防ダムなどの土砂災害防止対策に努めます。



5. 杉妻地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は中心市街地の南側に位置する利便性の高い地区で、旧国道4号沿道の繊維産業や自動車産業などにより本市の発展を支えてきました。また、中心市街地の南側の重要な位置を占め、生活面での利便性に優れています。

地形的には、南部の丘陵地を除いて平坦であり、地区の東側を阿武隈川が流れ、地区内には濁川が流れています。

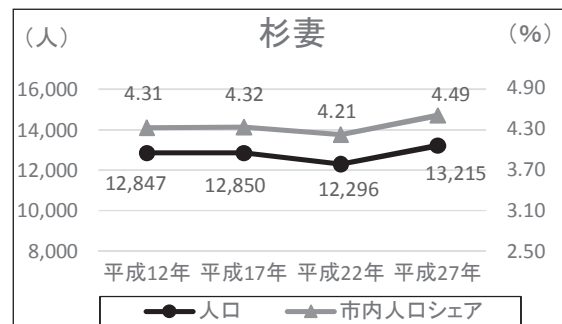
地区北部は、住宅、店舗、工場等が混在した複合市街地であり、南北に伸びる国道4号及び旧国道4号、東西に伸びる国道115号及び一般県道南福島停車場線や一級市道南向台・黒岩線沿道を中心に、大規模店舗や大規模工場が立地しています。また、地区の西側に位置する東北本線の南福島駅は周辺地域の公共交通の結節点となっています。

地区南部は、あさひ台団地・南福島ニュータウンなどの大規模住宅団地があり、周辺の丘陵地は市街化調整区域となっており、共楽公園や緑豊かな山林などの自然空間に恵まれており、ゴルフ場などもみられます。

黒巖山満願寺虚空蔵堂をはじめ、歴史と由緒ある神社仏閣が残されています。



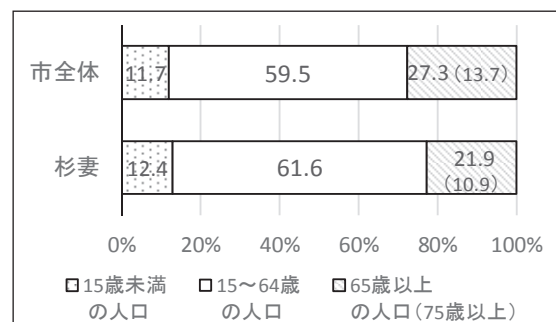
位置図



人口



黒岩虚空蔵尊と周辺の自然
「景観100選より」



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●安全で安心して暮らせるまちづくりが必要です

本地区は、中心市街地に隣接する非常に利便性の高い地区ですが、地区内を南北に通る国道4号や旧国道4号は、渋滞が著しい状況にあります。この渋滞に伴い、東西に伸びる一般県道南福島停車場線や一級市道南向台・黒岩線も渋滞が著しい状況にあります。したがって、通過交通を排除し南北方向の交通量を分散させるため、バイパス道路の整備促進及び対策を検討する必要があります。

また、通勤通学の安全な歩行者・自転車交通の確保を図るため歩道・自転車通行帯や地区南部の住宅団地等からの通勤・通学状況を踏まえた道路整備の検討も必要です。

既成市街地においては、浸水危険区域に指定されているため、水害に強いまちづくりが必要です。

●住環境の向上が必要です

本地区は、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、住・商・工の混在した複合市街地や古くから耕地整理の農道を利用した小規模な開発による宅地化が進んできた地区において、生活道路や公園等の住環境の充実と残存農地や空き地などの未利用地や空き家の活用を図っていく必要があります。

●自然・歴史などの地域資源を活かしたうまいのあるまちづくりが必要です

本地区には、黒巖山満願寺虚空蔵堂や春日神社、烏谷野渡船場跡など歴史的な資源が数多く受け継がれています。また、阿武隈川、濁川が流れ、地区南部の丘陵地は緑豊かな樹林地が残っています。

このため、樹林地や農地の保全とともに歴史・自然資源の有効活用を行うことにより、個性的でうまいのあるまちづくりが求められています。

また、都市近郊の田園地域等では、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

(3) 地域の将来像

「出会いとつながりに 感謝と誇りの持てるまち すぎのめ」

- 地域住民がお互いに助け合い支え合う 笑顔と感謝のあふれるまち
- 子どもからお年寄りまで安全で安心して暮らせる思いやりのあるまち
- 地域の歴史や行事に親しみと誇りを持ち保存と継承を大切にすまち
- 一人ひとりが自然環境と向き合い行動できる未来を見つめて進むまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 地区北部は、中心市街地に近い利便性の高い市街地として住・商・工が共存する市街地の形成を図ります。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 大規模店舗等が集積している国道4号沿道については、商業業務施設などの適正な立地を誘導します。
- 杉妻支所、南福島駅周辺地区は地域生活拠点として、生活利便施設などの集積を誘導します。
- 計画的に整備されたあさひ台団地、南福島ニュータウンなどの大規模開発住宅団地については、緑化等により良好な住環境を保全します。
- 地区南部の市街化調整区域の既存集落においては、生活道路の改善などにより、住み続けられる住環境の充実を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 市街化区域においては下水道整備、その他の区域においては生活排水処理施設の整備等により、自然環境の保全及び生活環境の改善を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 国道4号の南北交通の分散や渋滞を緩和するため、国道13号福島西道路の南伸の促進や太平洋寺岡部線などの整備を図るとともに市街地東側の環状道路の整備を検討します。
- 地区南部のニュータウンからの通勤・通学の状況を踏まえた道路整備を検討します。
- 鉄道・バス等の公共交通利用を促進するため、南福島駅については、アクセスの向上、鉄道・バスなどと相互の連携強化を図ります。
- 自転車などの利用実態を踏まえつつ、河川空間の活用などを含め、歩行者・自転車が安全快適に利用できるネットワーク形成を図ります。

③ その他の方針

- 阿武隈川は水と緑の軸として、良好な自然環境を保全するとともに身近に親しめる河川空間としての活用を図ります。
- 阿武隈川を始めとする濁川、大森川等においては、自然及び住環境に配慮しつつ堤防の強化や河川改修、雨水排水施設等の整備を推進し、水害に強いまちづくりに努めます。
- 黒巖山満願寺虚空蔵堂、烏谷野渡船場跡などの歴史資源を地区の財産として保全・活用するとともに、自然環境の保全・保護や清掃・美化、花いっぱい運動等による良好な景観形成を進め、個性的で魅力的なまちづくりに努めます。
- 杉妻学習センターは、生涯学習機能の充実と施設の利用促進のため整備検討を進めます。

6. 蓬萊地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、市域の南東部の丘陵地に位置し、市街化区域は大規模開発により教育施設・生活利便施設等が一体的に整備された蓬萊団地や桜台ニュータウン・田沢の一部、清水町の既成住宅地が含まれ、西側の一部に工場が立地しています。市街化調整区域は農地、既存集落、ゴルフ場、山林等の土地利用となっています。

地区東端を阿武隈川が、また蓬萊団地の北東部を田沢川が流れています。

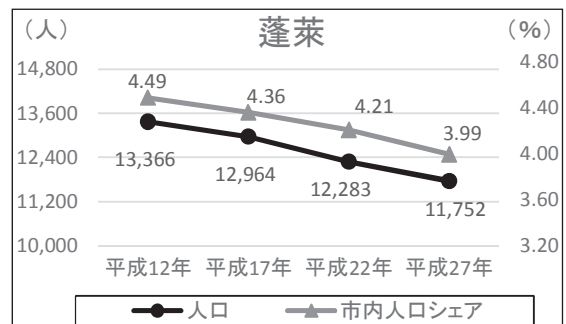
骨格道路としては、地区西端を国道4号が、また中央を蓬萊幹線が通っています。

蓬萊団地の中心部には、蓬萊支所をはじめ蓬萊学習センター、蓬萊児童センター、金融機関、商業施設、中央公園等が集積しています。また、地区南に隣接して県立医科大学が立地しています。

人口は減少傾向にあり、高齢者の割合も高い状況にあります。



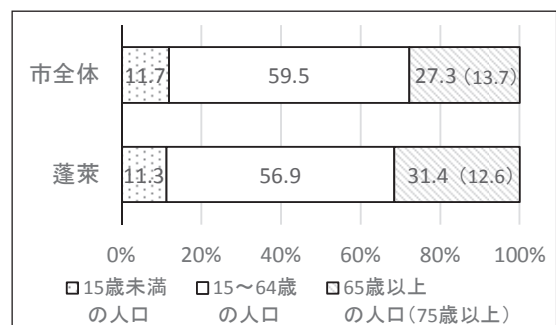
位置図



人口



蓬萊団地と地区中心部



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●総合的な交通環境の整備が望めます

通勤通学等の中心市街地へのアクセスは国道4号に依存しているため、渋滞問題が顕在化しており、国道13号福島西道路の南伸をはじめとするバイパス整備や、公共交通機関としての鉄道との連絡強化を図り、総合的な交通環境の整備が望めます。

また、冬期間の安全対策やバリアフリー化、道路等の老朽化対策が求められています。

●多様な世代が居住・交流できる環境づくりや地域生活拠点の充実が必要です

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、本地区の居住者実態をみると、核家族世帯の割合が最も高く、また高齢化率も高い状況にあり、居住面や生活サービス面などにおいて、多様な世代が暮らし地域コミュニティを継承できるような環境や条件の整備が必要と考えられます。

地区中心部には、蓬萊支所や蓬萊学習センター、商業業務施設、中央公園等の施設が集積し利用されています。今後は地区住民の高齢化や世代交代等居住者像や利用実態の変化等に対応しながら、地域の利便施設として、また、コミュニティ活動の拠点として、これら地域生活拠点の機能を充実していく必要があります。

また、都市近郊の田園地域等では、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●自然・歴史資源等のまちづくりへの活用が必要です

市街地周辺には山林地帯が広がり豊かな自然環境を形成しているほか、峠森瀧不動尊や大瀧神社など歴史資源、つつじヶ森キャンプ場やゴルフ場等のレクリエーション資源もみられることから、これらの資源を保全・活用したまちづくりや交流環境の充実が望めます。

(3) 地域の将来像

- 若者から高齢者まで地域住民であることに誇りと愛着を持って、いきいきと暮らせるまち
- 各種地域活動団体などのネットワークを大切にした明るく元気なまち
- 防犯、防災体制の充実による住民が安全に安心して暮らせるまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

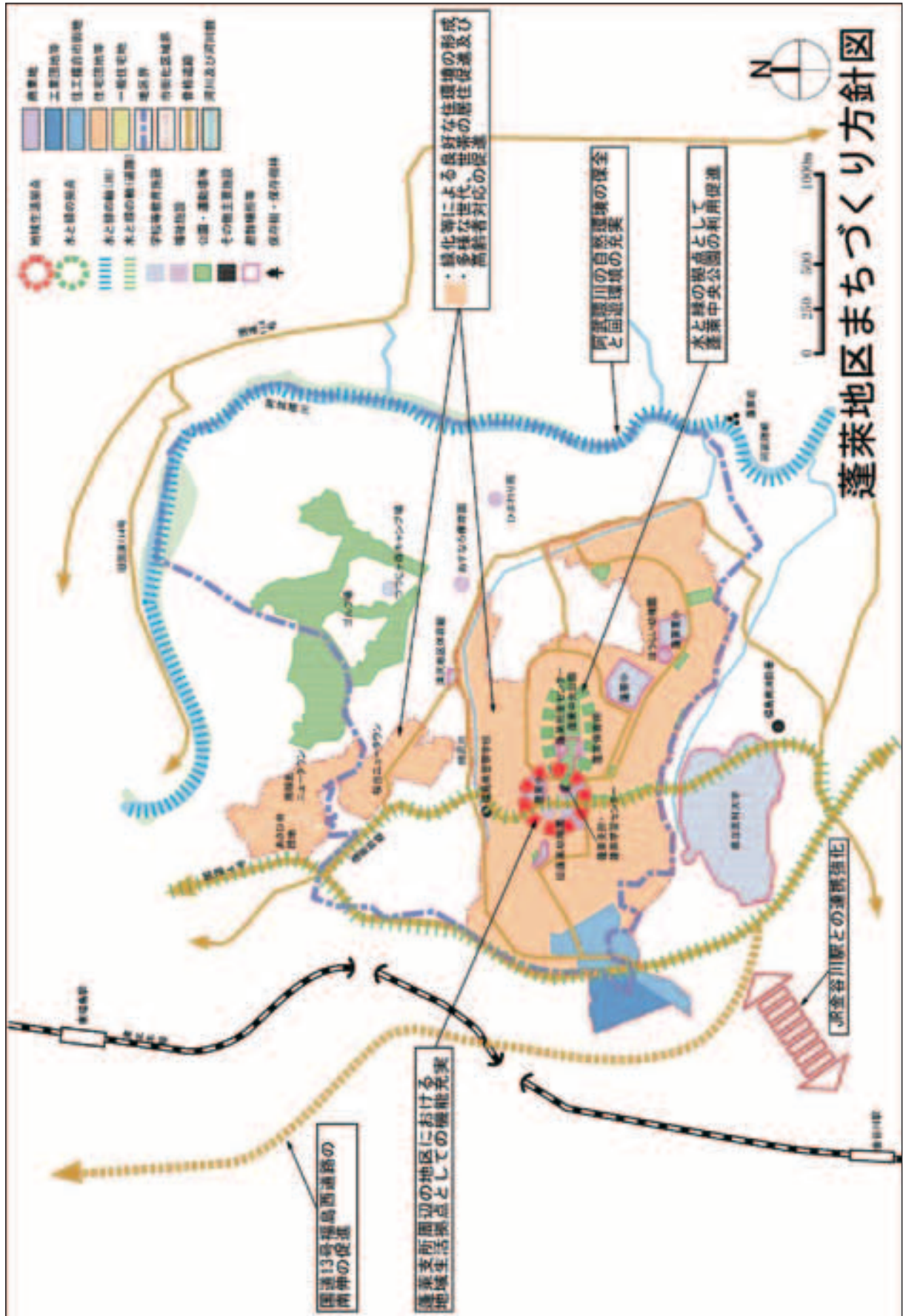
- 蓬萊支所、蓬萊学習センター、商業業務施設、公園等が集積する地区においては、日常生活を支える地域生活拠点として機能充実を図ります。
- 既成市街地の住宅団地においては、空き家などの既存ストックを活用するとともに、緑化の誘導などにより良好な住環境や美しい街なみの形成を図ります。
- 市街化調整区域における既存集落においては、生活道路などの整備等の推進により良好な住環境の改善・向上を図ります。
また、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 市街化区域においては下水道整備、その他の区域においては生活排水処理施設の整備等により、自然環境の保護及び生活環境の改善を図ります。
- 周辺の農地や山林については、地区を取り囲む豊かな緑として保全します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 地区外との道路交通の円滑化や渋滞の緩和を図るため、国道13号福島西道路の南伸の促進とともに、道路ネットワークの充実を検討します。
- 地区の交通利便性を高めるため、金谷川駅へのアクセス強化による鉄道利用促進を図るとともに、循環バス等の維持・増進について検討します。
- 生活道路においては、狭隘道路の解消や交通安全施設の整備、冬期の凍結対策、歩道のバリアフリー化などにより安全性を確保するとともに、地区内を快適に歩けるような散策路のネットワーク化を検討します。

③ その他の方針

- 緑の拠点である蓬萊中央公園をはじめとする身近な公園においては、利用の促進を図ります。
- 蓬萊幹線においては、水と緑の軸として街路樹や良好な沿道景観の保全、沿道の樹林地の保全などを図ります。
- 阿武隈川は、水と緑の軸として、良好な自然環境の保全と回遊環境の充実を図ります。
- 公的住宅においては、バリアフリー化等の高齢者居住に対応した住宅仕様や、居住者ニーズを踏まえた住環境の充実に努め、多様な世帯・世代の居住促進を図ります。
- 山林等豊かな自然を保全し、また、峠森瀧不動尊や大瀧神社などの歴史資源、つつじヶ森キャンプ場やゴルフ場等のレクリエーション資源を活用したまちづくりに努めます。



7. 清水地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、信夫山を挟んで中心市街地の北側に位置する利便性の高い地区です。

地区の東西に松川が流れており、地名「清水」の由来ともなっている湧水が各所でみられます。

国道13号、国道13号福島西道路、主要地方道福島飯坂線等の幹線道路や東北本線、東北新幹線、阿武隈急行線に加え地区内に4つの駅を持つ福島交通飯坂線が通っています。

主要地方道福島飯坂線、国道13号及び国道13号福島西道路沿道の商業地には、沿道型商業施設が立地しています。

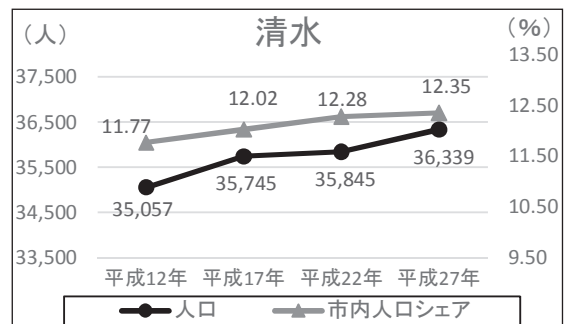
鉄道利便性の高い地域として住宅中心の市街地が形成されており、地区西部の市街化調整区域は果樹・水田等の優良農地が広がっています。地区南部では、国道13号福島西道路の整備に併せ福島西土地区画整理事業などにより良好な商・住環境が形成されています。

松川湧水公園など左右両岸に広場が造られ市民の憩いの場となっている松川や緑豊かな信夫山があり、県立美術館・図書館、清水学習センターや森合運動公園等の文教施設が立地しています。

また、本地区は約3万6千人の人々が住んでおり、市内でも人口密度が高い地区となっています。



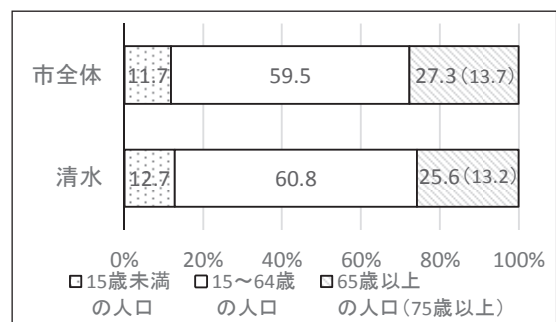
位置図



人口



嶽駒神社馬場の桜並木
「景観100選より」



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●信夫山や松川等の自然環境や歴史資源の保全・活用が必要です

本地区にうるおいを与えている松川の水辺空間や本市のシンボルである信夫山の緑、さらには数多くの史跡など、地区の自然環境や歴史資源の保全・活用が必要です。

本地区の農業は、地区の産業を担うとともに、地域振興の貴重な財産となっています。このため、農業生産地としての保全と生産性の向上や地域振興を進めていく必要があります。

また、都市近郊の田園地域等では、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●安全・快適な道路・交通網の充実が必要です

本地区は、中心市街地に隣接する利便性の高い地区ですが、中心市街地へ向かう国道13号や主要地方道福島飯坂線などの幹線道路が集まる地区でもあり、著しい交通渋滞がみられ、生活道路にも影響が生じているため道路整備の促進により、交通量の分散と通過交通の適切な処理が必要となっています。

また、松川や福島交通飯坂線・阿武隈急行線・東北本線等の鉄道によって分断されている地区の円滑な交通を確保する必要があります。

なお、福島交通飯坂線は、本地区と中心市街地を結ぶ重要な公共交通機関となっており駅周辺の整備など公共交通網の充実が必要です。

●既成市街地の住環境の充実が必要です

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、松川左岸の住宅団地や福島西土地区画整理区域以外の既成市街地においては、従来の農道を利用した小規模な開発による宅地化が進んできたことから、狭隘道路や行き止まり道路の改善や下水道・公園・緑地等の充実など、安全性・快適性の向上を図る必要があります。

また、希望ある復興を図るとともに広域避難者への支援など、住宅需要への対応が求められています。

(3) 地域の将来像

- 地区の文化、歴史資源を生かしたまち
- 住民の交流が盛んなまち
- 水と緑を生かした生活のできるまち
- 安全性、快適性、防災力のあるまち
- みんなが支え合うふくしのまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導・空き家などの既存ストックを活用するとともに、狭あい道路や袋小路の解消、身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 福島西土地区画整理区域においては地区計画に基づいて、ゆとりと潤いのある良好な住環境の形成を誘導します。
- 泉駅、岩代清水駅周辺においては、生活利便施設の適切な集積誘導やアクセス性の向上により、地域生活拠点としての機能充実に努めます。
- 主要地方道福島飯坂線沿道においては、日常生活を支える商業地として、また国道13号沿道においては、中心市街地を補完する商業機能の適正な誘導を図ります。
- 市街化調整区域においては、無秩序な開発を防止し優良農地の保全に努めるとともに、既存集落においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 周囲の自然環境との調和に配慮し生活道路や下水道・生活排水処理施設などの充実により、良好な住環境の形成を図ります。
- 広域避難者への支援や復興を先導する地域振興施設の検討など、良好な市街地形成を図る観点から面的・計画的な整備・誘導が必要な地区については、地区計画制度等の活用などについて検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 適正な通過交通の処理と交通の分散を図るため、国道13号福島西道路の北伸について検討します。また、地区の骨格となる北沢又丸子線、主要地方道福島飯坂線等の幹線道路の整備を推進します。
- 河川や鉄道による地域分断を解消するため、まちづくりという面も踏まえ、新たな橋梁整備や踏切改良・立体交差の整備を検討します。
- 鉄道・バスの利用を促進するため、福島交通飯坂線駅周辺におけるアクセス道路や自転車駐車場等の整備とともにバスとの連携強化を図り公共交通網の充実に努めます。
- 中心市街地に隣接し利便性の高い地区であるため、自転車の利用実態も踏まえながら、安全かつ快適な自転車・歩行者ネットワークづくりについて検討します。

③ その他の方針

- 本市のシンボルである信夫山は、緑の拠点としてその自然景観を保全するとともに、身近な自然と触れあえる遊歩道等の自然学習のできる環境の充実を図ります。また、麓の県立美術館・図書館周辺は文化施設の立地を生かした魅力的な住環境の充実を図ります。
- 松川は水と緑の軸としてその自然環境を保全するとともに、河川敷の有効活用や桜並木の保全・活用を図り、スポーツ・レクリエーションの場として魅力的な水辺空間形成を促進します。

- 森合運動公園や森合西公園は、緑の拠点として機能の充実を図るとともに、身近な緑として親しまれている一盃森の自然環境を保全します。また、福島西土地区画整理地内の清水端公園・びわぶち公園等身近な公園の充実を図ります。
- 嶽駒神社や光徳寺等の地区の歴史資源や地名の由来となっている清水を保全・活用するとともに、多彩な地域資源を活かした景観の美化や健康ウォーキングの環境づくりを進めるなど、個性的で魅力的なまちづくりに努めます。



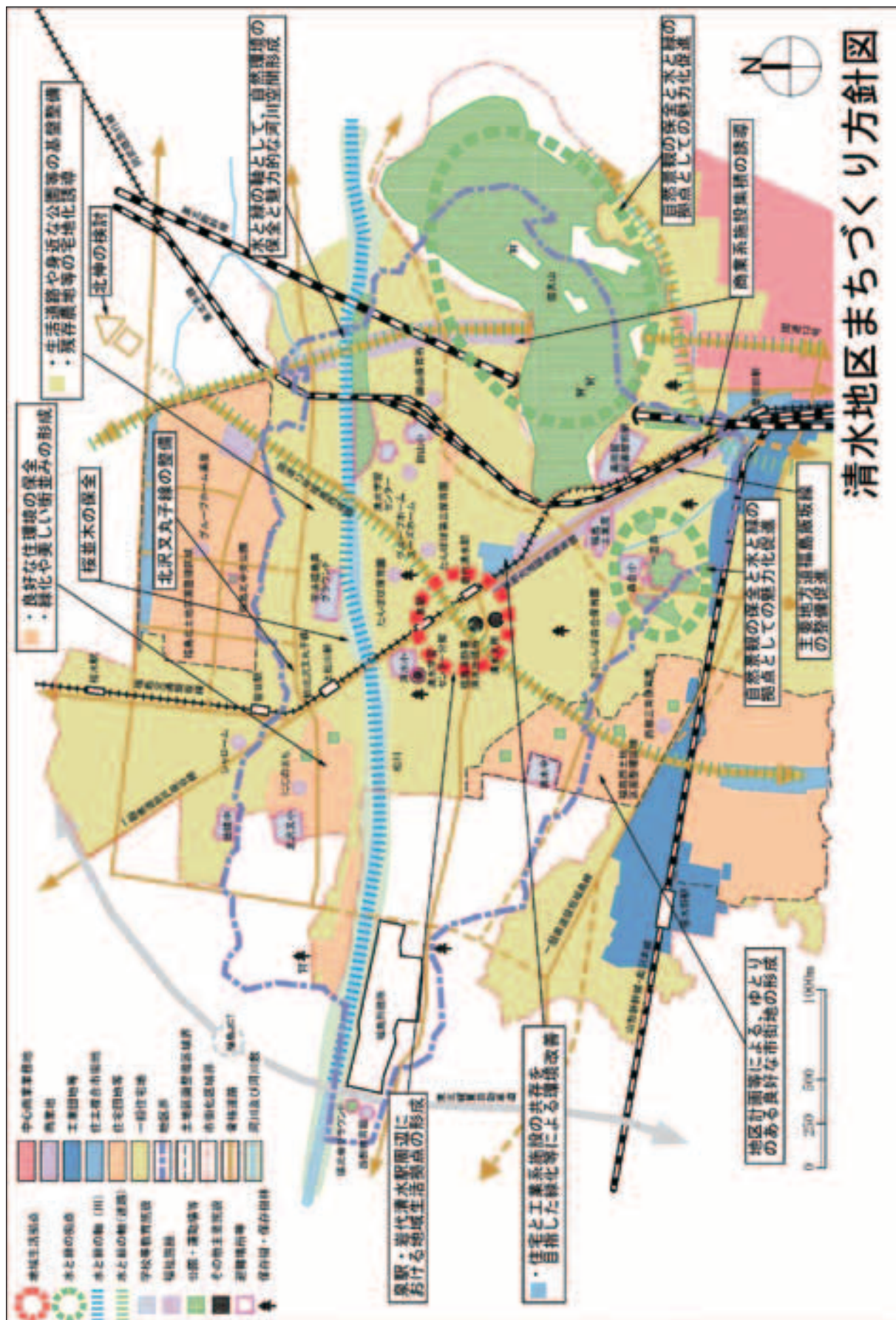
福島西道路沿道の並木と公園
「景観100選より」



松川運動公園の古木桜と吾妻連峰
「景観100選より」



烏ヶ崎から見た清水地区



8. 東部地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、阿武隈川を挟んで中心市街地の東部に位置し、相馬地域や伊達地域を結ぶ東の玄関口であり、岡山・月輪地区と大波地区で構成されています。

交通は、国道115号、主要地方道路福島保原線、一般県道飯坂保原線、一般県道山口保原線、一般県道岡部渡利線などの幹線道路交通整備により、アクセスが集中しています。

また、高規格幹線道路の国道115号相馬福島道路が復興支援道路として位置づけられ、急ピッチで建設工事が進められています。

岡山地区には、阿武隈川に沿って形成されている住宅地を主とした市街地と福島工業団地があり、市街化区域になっています。その他の地域は市街化調整区域であり、肥沃な農地が広がり近郊農業による農産物の供給基地となっています。大波地区は、都市計画区域外であり、山間の農地と豊かな山林が広がっています。

阿武隈山地に連なる自然豊かな山地・山麓には、奥の細道に縁のある文知摺観音、大波城趾、国指定の宮畑遺跡（じょうもびあ宮畑）などの歴史資源や小鳥の森などの自然資源も数多く見られます。



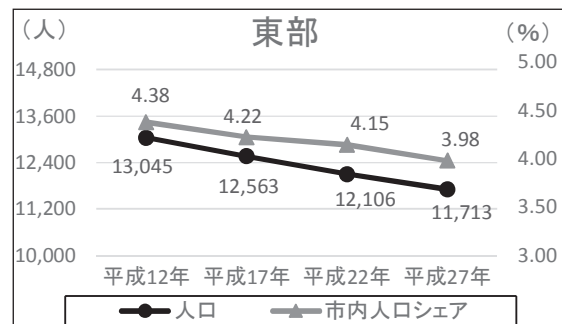
峨嵋山から見た市街地
「景観100選より」



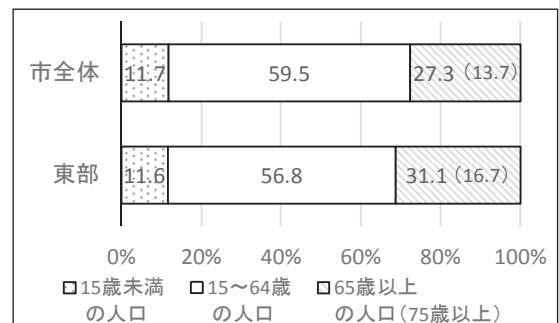
復元された縄文時代のむら
「じょうもびあ宮畑」 「景観100選より」



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●住環境の改善が必要です

本地区は、古くから耕地整理の農道を利用した小規模な開発による宅地化が進んできたことから、生活道路や公園などの基盤施設の整備に立ち遅れがみられます。

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、市街地における安全性や快適性の向上を図り、魅力ある住環境の整備を図る必要があります。

市街化調整区域や都市計画区域外の既存集落においては、自然環境との調和に配慮しながら、住み続けられる住環境整備を進める必要があります。

また、都市近郊の田園地域等では、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●安全で安心な定住環境の充実と骨格となる道路の整備が必要です

本地区は、本市と相馬・伊達地域を結ぶ位置にあることから、国道115号や主要地方道福島保原線などの地区の骨格道路においては、通過交通により交通渋滞が著しい状況にあるため、幹線道路の整備が必要です。また、歩道の整備がされていない主要道路区間における、歩行者・自転車交通の安全確保が求められています。

また、国道115号相馬福島道路（仮称）福島保原線 IC 等を活用し観光・工業・流通と連携を図るなど地域振興を進めていくことが必要です。

また、阿武隈川や胡桃川などの浸水危険区域における水害防止対策の推進による水害に強いまちづくりが必要です。

●自然・歴史などの資源を活かした魅力あるまちづくりが必要です

阿武隈川沿いには、あぶくま親水公園や小鳥の森などの自然資源とともに奥の細道に縁のある文知摺観音をはじめ、大波城趾や国指定史跡の宮畑遺跡（じよーもぴあ宮畑）などの歴史資源が多く分布しているため、これら固有の自然資源や歴史資源を有効に活用した魅力あるまちづくりが必要です。

(3) 地域の将来像

「小鳥のさえずる、歴史とロマンの里、東部地区」

- 自然と調和した、快適な生活環境が整備された魅力あるまち
- 災害に強く、安全で安心して生活できるまち
- 地域活動が支え合う、子どもや高齢者にやさしいまち
- 歴史と自然資源を活用した、にぎわいのある地域交流のできるまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。また、住工混在在市街地においては、緑化などにより住宅と工業系施設が共存できる環境の充実を図ります。
- 福島工業団地においては、周辺環境に配慮しつつ、国道115号相馬福島道路（仮称）福島保原線ICとのアクセス強化を図り、工業・流通機能拠点としての機能充実を図ります。
- 東部支所やもちずり学習センターの周辺は地域生活拠点として、地域住民の生活を支える機能や環境の充実を図ります。
- 市街化調整区域・都市計画区域外については、生活排水処理施設などにより農産物の供給基地となる肥沃な農地や豊かな自然環境を保全します。
また、既存集落においては、無秩序な拡大を防止しつつ周辺環境との調和に配慮し、良好な住環境の充実を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

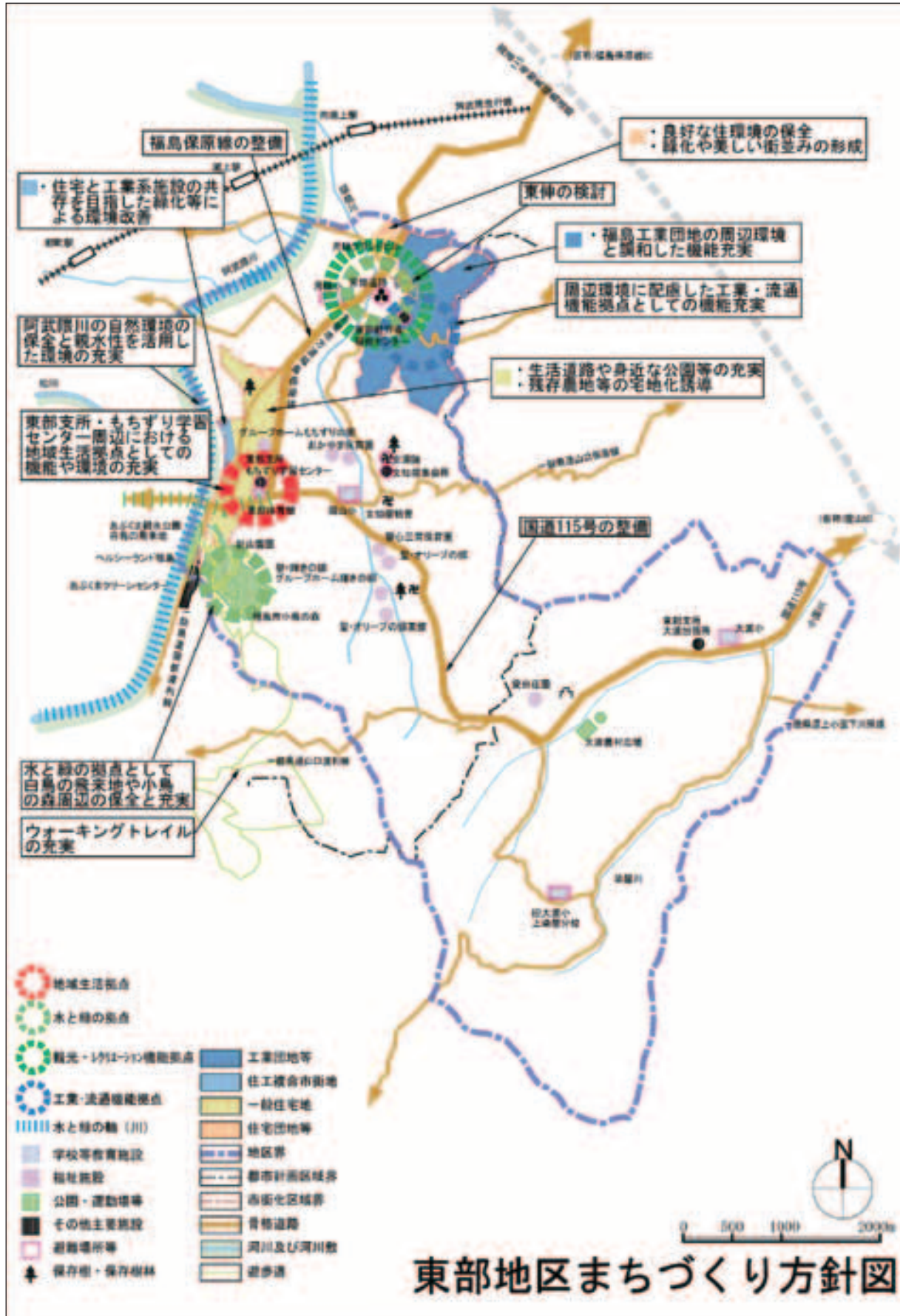
② 道路・交通の方針

- 国道115号、主要地方道福島保原線、一般県道岡部渡利線など幹線道路においては、交差点改良等による渋滞緩和を図るとともに、歩道設置や冬期間の凍結防止などによる歩行者や自転車交通にも配慮した道路整備を促進します。
- 生活道路においては、狭隘道路の解消等を図り、住環境の安全性・防災性の確保に努めます。
- 国道4号の通過交通の排除と渋滞緩和を図るため、一般県道飯坂保原線の広域交通としての機能充実や市街地東側の環状道路整備などについて検討します。

③ その他の方針

- 阿武隈川は、水と緑の軸として良好な自然環境を保全するとともに、身近に親しめる河川空間としての活用を図ります。
- 文知摺観音や月の輪の渡し・宮畑遺跡・大波城趾などの多くの歴史資源やあぶくま親水公園や小鳥の森などの豊富な自然資源を有効に活用しながら、個性的で魅力的なまちづくりに努めます。
- 既存の研修施設や集会施設・体育館などは、地域コミュニティの充実や生涯学習などに、有効に活用するとともに機能充実を図ります。
- 阿武隈川沿いに広がる平坦地については、浸水危険区域に指定されているため、堤防の強化や雨水排水処理施設などの整備や、胡桃川などの河川改修・排水路整備などを進め、水害に強いまちづくりに努めます。
- あぶくま親水公園や小鳥の森の周辺地区においては、渡利地区の自然・歴史資源を活用したウォーキングトレイルなどとのネットワーク化の充実を図ります。

V 地域別構想 — 地域別まちづくりの方針



9. 北信地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、市域の東北端に位置し鎌田・余目・瀬上の3地区から構成されており、阿武隈川・松川・摺上川が周辺を流れています。

地区内には、国道4号、国道13号をはじめ国道13号福島西道路、一般県道飯坂保原線などの主要幹線道路や東北本線・阿武隈急行線の鉄道が通っています。また、東北縦貫自動車道福島飯坂ICに近く流通面においても交通の便に恵まれています。

市街化区域は、東北本線の概ね東側と福島北土地区画整理区域及び福島飯坂IC周辺の住宅団地の一部となっています。地区の中央部には北信支所・学習センター、福島学院大学をはじめ医療施設・公営住宅団地等が集積しており、その南側には公設地方卸売市場や卸商団地が、西側には大型小売店が立地しています。また、摺上川北側と阿武隈川沿いの工業団地には食品関係の工場が立地しています。

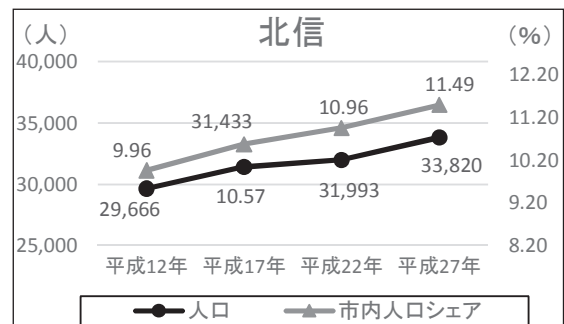
市街化調整区域には、リンゴ・モモなどの果樹地帯や水田などの優良農地が広がっています。

観光・歴史資源として本市でも知名度が高い日枝神社の山王祭りが行われるほか陣屋跡、館跡などの遺跡や神社、寺院が点在しています。

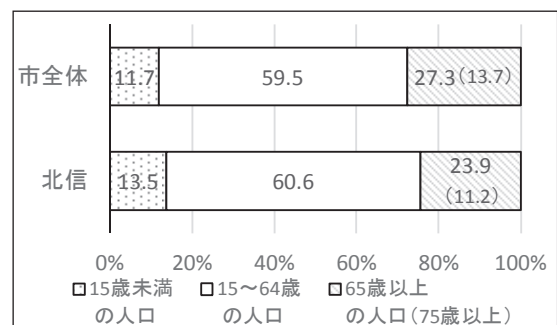
また、約3万2千人の人々が住んでおり、市内でも人口増加が高い地区となっています。



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）



瀬上宿場町の歴史と周辺の街並み
「景観100選より」

(2) 地域の主要課題

●身近な住環境や都市基盤の充実が必要です

既成市街地においては、残存農地の宅地化の誘導・空き家などの既存ストックを活用するとともに、小規模な開発により形成されたことによる生活道路や公園・排水路などの整備の立ち遅れが見られるため、これら住環境の充実を行い、生活圈などの計画的・効率的な除染を進めながら、安全・安心して住み続けられる住環境の充実が必要です。

また地区の東部においては、浸水危険区域となっているため水害に強いまちづくりが必要です。

●主要幹線道路の整備が必要です

国道4号、国道13号や一般県道飯坂保原線などの主要幹線道路においては、特に朝夕の交通渋滞が慢性化し問題になっているため、地区内を南北に結ぶ道路などの主要幹線道路の整備が必要です。

●市街地と優良農地が調和するまちづくりが必要です

本地区には、本市を代表する優良な果樹地帯が広がっていますが、住宅整備などの開発が進むにつれて農地などへの生活排水の流入、また、果樹畑における農薬の散布による問題が生じているため、市街地と農地の調和したまちづくりが求められています。

また、都市近郊の田園地域等では、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加などにより既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●自然や歴史資源を活かしたまちづくりが必要です

本地区には幾筋もの河川をはじめとする豊かな自然とともに、神社仏閣や「奥の細道」史跡等の多くの歴史資源に恵まれています。十分に活かされていないため、これら固有の自然・歴史資源を有効に活用した、まちづくりが必要です。

(3) 地域の将来像

「やすらぎと潤いのある 安全・安心なまち」

- 子どもや高齢者が家庭や地域社会の中でいきいきと暮らし、生涯にわたって心豊かに生活を送るための生涯学習が充実したまち
- 地域の景観や風土を生かしたにぎわいと活力あふれるまち
- 犯罪、事故を防止し、災害に強い安全で安心なまち
- 農作業体験や食育を通して、農業の役割の大切さを次世代に引き継ぐまち
- 宮代多目的運動広場を基点とし、摺上川をはじめとする地域の自然と共生した個性的で魅力的なまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 北信支所や東北本線東福島駅及び阿武隈急行線卸町駅・福島学院前駅・瀬ノ上駅周辺地域は、住民の日常生活を支える地域生活拠点として、都市機能の充実を図ります。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。また、住工混在市街地においては緑化等により住宅と工業施設が共存できる環境形成を図ります。
- 土地区画整理区域の住宅地では、良好な住環境を保全し、緑化や良好な街なみ形成を図ります。福島北土地区画整理区域においては、緑化や美しい街なみの誘導など、ゆとりとうるおいのある良好な住環境の形成を促進します。
- 国道4号、国道13号等の沿道においては、日常生活を支え中心市街地の商業機能を補完する商業施設や業務施設の適正な立地を誘導します。
- 公設地方卸売市場は市民への生鮮食料品の安定供給の基幹的拠点として、効率的な管理運営と機能の充実を図ります。卸商団地においては、市民生活を支える流通業務の中心として機能の充実を図ります。
- 瀬上工業団地においては、周辺環境との調和に配慮し緑化などに努めるとともに、工業拠点としての機能の充実を図ります。
- 市街化調整区域においては、果樹園・水田等の優良農地、河川などの自然環境の保全を図るため、無秩序な開発を防止します。また、既存集落においては、生活道路の改善や身近な広場の整備等良好な住環境の形成を図ります。なお、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 既成市街地においては下水道整備、その他の区域においては生活排水処理施設の整備等により、自然環境の保護及び生活環境の改善を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 主要幹線道路である国道13号福島西道路の北伸について検討します。
- 地区の骨格道路となる一般県道飯坂瀬ノ上線などの整備について検討します。
- 鉄道利用の促進を図るため、駅前広場や自転車駐車場の整備、踏切改良について検討するとともにバスとの連携強化を図ります。
- 国道4号の通過交通の排除と渋滞緩和を図るため、市街地東側の環状道路の整備などを検討します。

③ その他の方針

- 阿武隈川や摺上川・松川は、水と緑の軸として、自然環境を保全するとともに、サイクリングロードや河川敷を利用した運動広場などは、身近に親しめる河川空間の充実を図ります。

V 地域別構想 — 地域別まちづくりの方針

- 蛭川、耳取川、渋川等の河川においては、親水性や自然環境に配慮しつつ、河川改修や排水路等の整備を行い、水害に強いまちづくりに努めます。
- 瀬上町の宿場町をしのばせる街なみや奥の細道の史跡、日枝神社等の歴史資源を保全するとともに、これらを活用した個性的で魅力的なまちづくりに努めます。



山王宮日枝神社と杉林
「景観100選より」



阿武隈川に合流する摺上川と吾妻連峰
「景観100選より」



瀬上宿場町の歴史と周辺の街並み
「景観100選より」



10. 吉井田地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、中心市街地の西側に隣接した、利便性の高い地区です。

地区の東部は市街化区域であり、旧国道115号沿いは本地区の発展を支えてきた自動車産業等の工業系土地利用が行われ、その周辺に既存住宅地が形成されています。また、近年、国道115号を始めとする地区の骨格道路沿いに沿道型の商業系施設の立地が目立ってきています。地区の西部は市街化調整区域であり、果樹園や水田などの優良農地が広がっています。

地区を南北に通る国道13号福島西道路や方木田茶屋下線は地区の骨格道路であるとともに、市の環状幹線道路としても機能する重要な道路です。

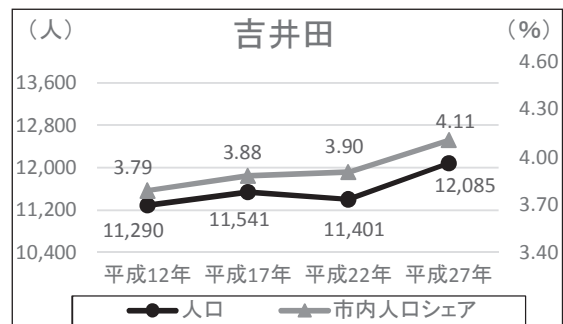
また、地区の北部を流れる清流荒川は本市を代表する河川として、吾妻連峰を背景とした荒川桜つつみ河川公園が整備され、花見や憩いの空間として親しまれています。



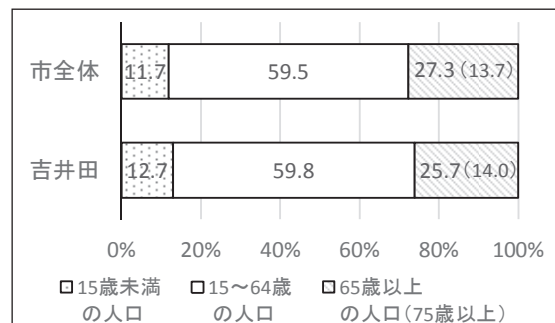
位置図



荒川桜つつみ河川公園と吾妻連峰
「景観100選より」



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●良好な住環境の形成が必要です

地区東部の既成市街地や西部の既存集落においては、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、生活道路、下水道、身近な公園など住環境の充実を図っていく必要があります。

都市近郊の田園地域などでは、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●安全で利便性の高い定住環境の強化が必要です。

本地区は荒川の旧河川敷に住宅地や農地が形成されているため、荒川や中小河川の氾濫による被害が予想され、浸水危険区域にも指定されており、水害に強いまちづくりを進める必要があります。

また、周辺地区との連携強化や移動環境の充実を図るため、国道13号福島西道路の南伸や、自転車の適切な利用環境づくりを進めていく必要があります。

●荒川等の自然・歴史資源等のまちづくりへの活用が必要です

本地区には、荒川、須川、馬川等の多くの河川、神社等の歴史資源、果樹園等の優良農地があり、これら固有の自然・歴史資源を有効に活用したまちづくりを進める必要があります。

特に、荒川桜つつみ河川公園の活用や、緑豊かな田園風景との共存に留意しつつ、美しい景観の保全と交流さかんな地域づくりを進めていく必要があります。

(3) 地域の将来像

- 安全で安心して暮らせる快適なまち
- 人にやさしいふれあいのあるまち
- 美しい景観の中でみんなが集うまち



荒川桜つつみ河川公園と桜並木
「景観100選より」

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

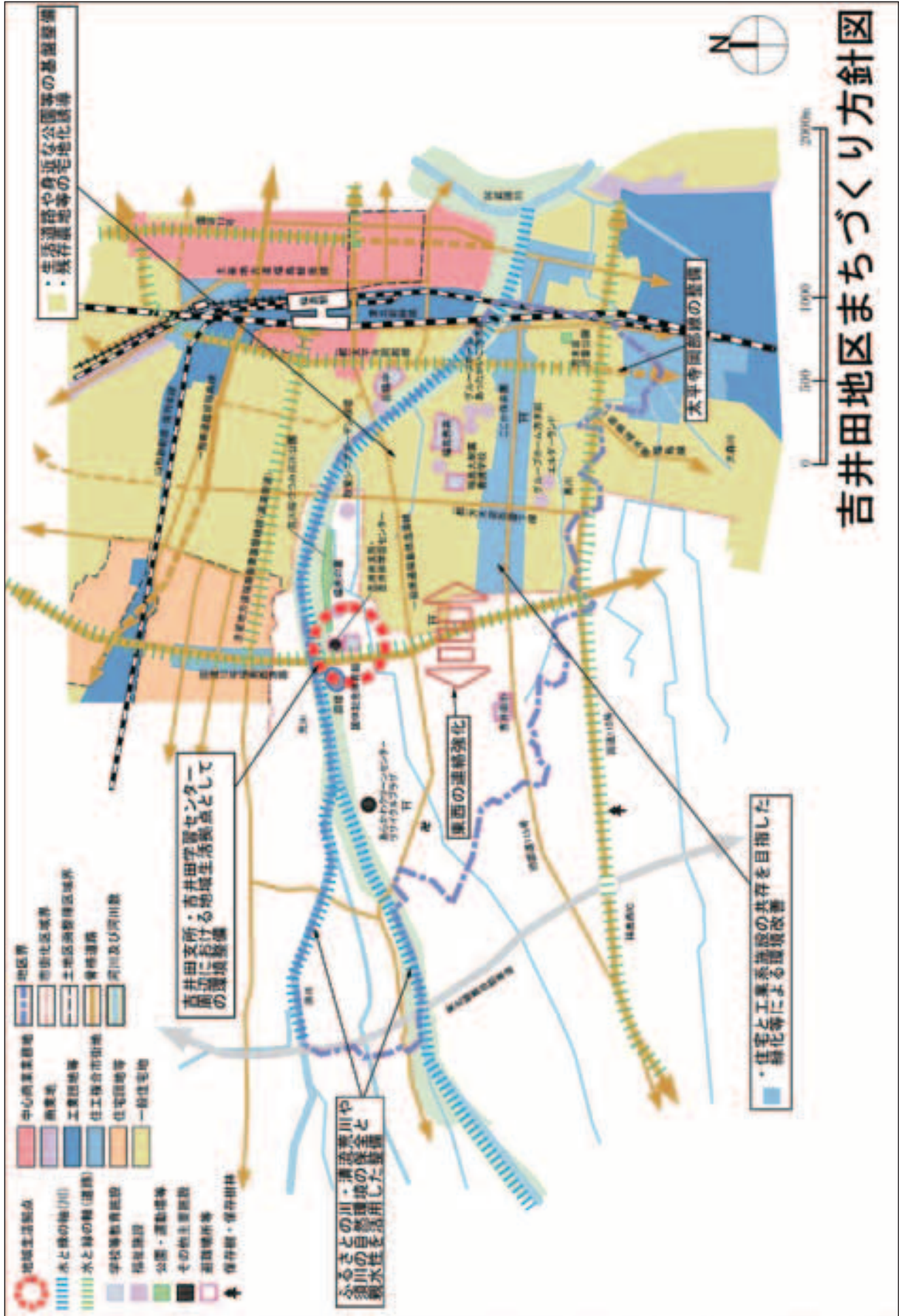
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 国道115号等の沿道においては、日常生活を支え、中心市街地の機能を補完する沿道商業地として、商業機能の適正な配置を誘導します。
- 旧国道115号や方木田茶屋下線沿道などの住工混在市街地においては、緑化などにより、住工が共存する良好な環境の整備を図ります。
- 吉井田支所・吉井田学習センター・国体記念体育館周辺においては、地域生活拠点として、アクセス道路等の環境の充実を図ります。
- 国道13号福島西道路沿いの地域においては、無秩序な開発を防止するとともに、適正な土地利用のあり方について検討します。
- 市街化調整区域においては、優良な農地や自然環境を保全し、既存集落の生活排水処理施設の整備や住環境の改善を図るとともに、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 国道13号福島西道路は、市の主要幹線道路として、南伸を促進するとともに、水と緑の軸（道路）として良好な景観形成を図ります。また、本道路の東西の連絡強化を目指し、安全な通学路の確保にも配慮した連絡道路等の整備を検討します。
- 中心市街地へのアクセス性向上のため太平寺岡部線等の整備を検討します。
- 自転車を取り巻く環境変化を踏まえつつ、歩行者・自転車が安全に通行可能な利用環境の充実に取り組んでいきます。

③ その他の方針

- 荒川などの河川において、自然環境の保全に配慮しつつ、堤防の強化や河川改修、排水路の整備などを促進し、水害に強いまちづくりに努めます。
- 水と緑の軸であるふるさとの川・荒川や須川周辺については、良好な自然環境を保全するとともに、サイクリングロードや親水環境、花の植栽など、レクリエーション交流環境の充実を図ります。
- 吾妻山を背景とする果樹園や水田等の農業景観や河川などの自然景観は、福島らしさを演出する景観として保全します。



11. 西地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

市の南西部に位置する本地区は、東西方向に長く伸びた形状であり、荒井・佐倉の両地区から構成されています。

佐倉西工業団地と上名倉・荒井土地区画整理区域は市街化区域に指定されており、その他の市街化調整区域や都市計画区域外は農地や吾妻連峰につながる山林となっています。

市を代表する河川である清流荒川周辺には、あづま総合運動公園、民家園や四季の里、水林自然林など多くのスポーツ・観光・レクリエーション施設が集積し、国道115号や主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）等の主要幹線道路が整備され、多くの市民や観光・行楽客を集めています。

また、本地区には、市営・県営住宅団地や畜産研究所、東北農業研究センター、自衛隊駐屯地、警察機動センター、自治研修センター、消防学校などの大規模施設が数多く立地しており、上名倉・荒井土地区画整理区域においては、商工業・流通業務施設、医療施設や住宅の建設が進み、調和のとれたまちづくりが進められています。地区全体としては高齢化とともに人口減少が著しい状況となっています。

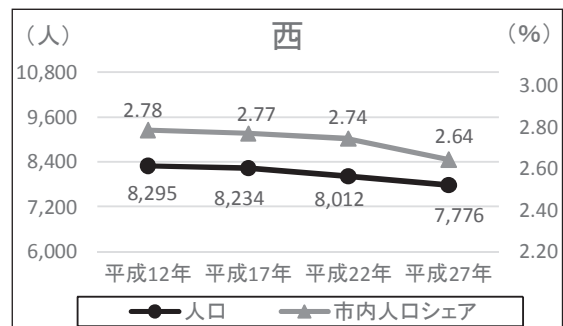
本地区には義民・太郎右衛門霊堂、種まき桜の慈徳寺、大竹地蔵尊や地蔵原金剛山、旧佐久間邸など寺社仏閣や遺跡など、数多くの歴史資源が残されている。



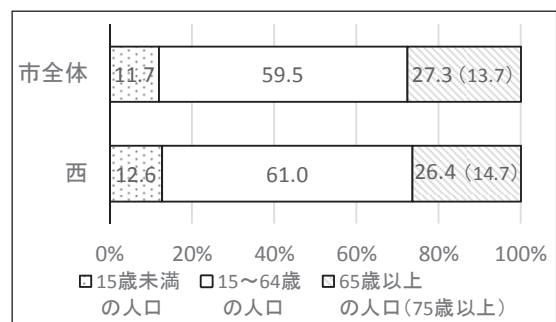
四季の里園内と豊かな自然
「景観100選より」



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●豊かな景観や自然環境の保全が必要です

本地区は、吾妻連峰の雄大な景観や中心市街地の遠景とともに、荒川の自然や四季の里の花々、周辺に広がる果樹地帯など、豊かな自然にも恵まれているため、これらの景観や自然環境の保全と沿線施設の利活用を進める必要があります。

●観光・歴史資源等を活かしたまちづくりが必要です

本地区には、あづま総合運動公園を始め、民家園・四季の里などが整備されており、また、寺社仏閣や遺跡など数多くの歴史資源も残されているため、これらの観光・歴史資源を、地域振興や個性的なまちづくりに活用することが求められています。

●住み続けられる住環境形成が必要です

本地区には既存の農村集落や住宅団地がありますが、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、高齢化等にも配慮した、住環境の充実や、遊休農地などに対する農地利用対策などが求められています。

本地区の荒川沿線には既存集落や工業団地が形成されており、荒川の氾濫による浸水被害が発生するため、水害に強いまちづくりを進める必要があります。

(3) 地域の将来像

「豊かな自然と共生し、活力のある、安心して楽しく暮らせるまち」

- 荒川をはじめとする豊かな自然と共生するまち
- 豊かな自然やスポーツ・観光・レクリエーション施設、歴史資源を活用した個性的で活力のあるまち
- 若者の定住を促進し、家族が豊かでにぎわいのあるまち
- 高齢者と子どもたちのふれあいなど、人々が交流し、みんなが安心して楽しく暮らせるまち



異国の情緒漂うアンナガーデン内の街並み
「景観100選より」

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

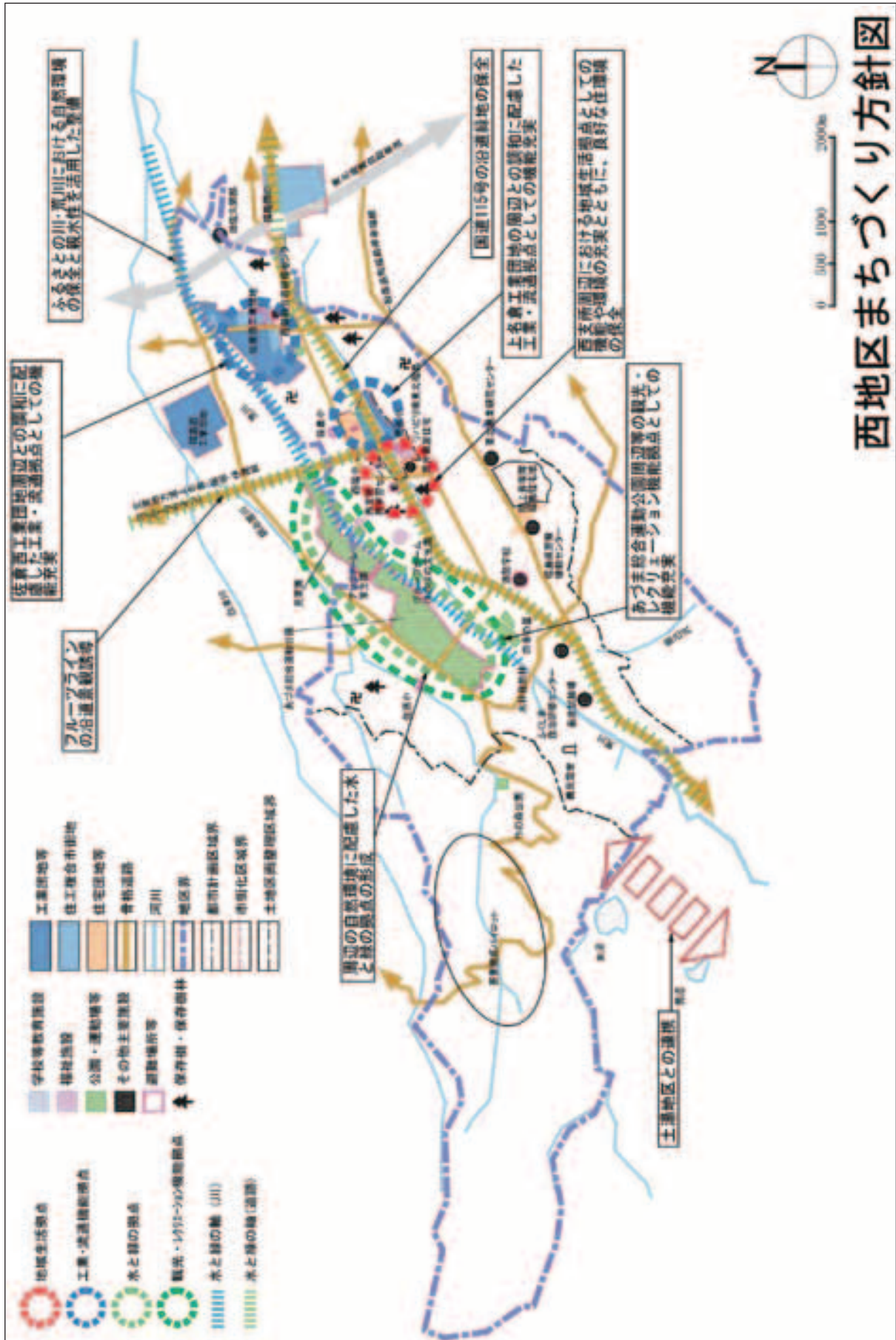
- 西支所や西学習センター周辺は、公営住宅団地や商店・医療施設などの生活利便施設の集積を活かし、地域生活拠点としての機能や環境の充実を図ります。
- 上名倉・荒井土地区画整理区域は、工業・流通機能拠点としての機能充実とともに、地区計画に基づき工業系施設と共存する、職住近接型の良好な住環境の形成を図ります。
- 佐倉西工業団地においては、緑化などにより周辺環境との調和に配慮し、工業・流通機能拠点としての機能の充実を図ります。また、隣接する住工混在市街地においては、住宅と工業系施設が共存できる環境形成を図ります。
- 市街化調整区域においては無秩序な開発を防止し、自然環境の保全に努めるとともに、地域農業の振興のため、土地改良事業などを進め、優良農地の保全を図ります。また、既存集落においては、生活道路の改善など住環境の向上を図ります。なお、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 既成市街地においては下水道整備、その他の区域においては生活排水処理施設の整備などにより、自然環境の保護及び生活環境の改善を図ります。
- 国立公園にも指定されている吾妻連峰に連なる豊かな山林地帯については、その豊かな景観とともに、水源かん養の資源として保全を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 国道115号や主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）については、水と緑の軸としての沿道緑地の保全や地域の生活道路との円滑な連携を図ります。

③ その他の方針

- 市を代表する河川であるふるさとの川・荒川などの河川については、自然環境の保全を図るとともに、親水性を活用した整備を進めます。
- あづま総合運動公園や四季の里・民家園・水林自然林等の観光・レクリエーション施設の機能充実とともに、連絡橋整備等によりこれらのネットワーク化を促進します。また歴史資源の活用とともに、土湯温泉など周辺観光地との連携の強化などにより、観光・レクリエーション機能の充実を図ります。
- 国道115号や主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）沿道においては、水と緑の軸や観光ルートにふさわしい景観の形成を誘導します。
- 本地区の荒川沿いは浸水危険区域に指定されているため、堤防の強化や砂防ダムの建設促進などにより水害に強いまちづくりに努めます。



12. 土湯温泉町地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は市域の南西端に位置し、本市の三大温泉の一つである土湯温泉を中心とした地区で、その大部分が磐梯朝日国立公園に指定されています。

地区東部の清流荒川沿いに旅館が集積する土湯温泉周辺は市街化調整区域であり、吾妻連峰につながる自然豊かな山林地帯は都市計画区域外となっています。土湯峠周辺にも野地、幕川、鷲倉などの温泉が点在するほか、男沼・女沼、吾妻小富士、浄土平、磐梯吾妻スカイラインなどの、観光資源に恵まれるなど、自然に親しみ観光・レクリエーション資源が数多くみられます。

また、温泉熱バイナリー発電や小水力発電など再生可能エネルギーの取組みが進められています。

国道115号の整備等により、観光地としての交通利便性は向上していますが、人口減少や高齢化も進んでいます。



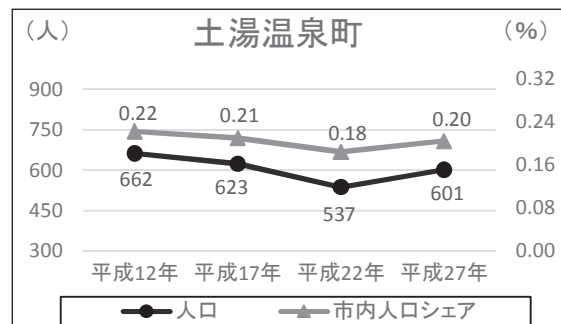
位置図



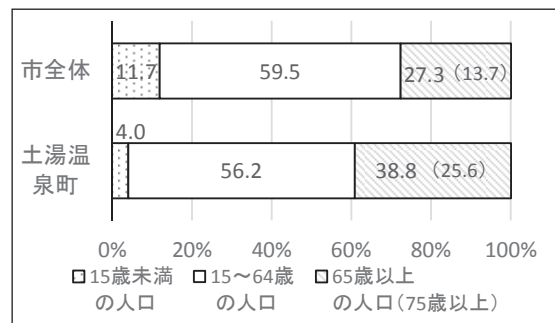
土湯温泉のつり橋と周辺の自然
「景観100選より」



土湯温泉街と周辺の自然
「景観100選より」



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●観光拠点としての魅力の強化が求められています

本地区は、国立公園にも指定された豊かな自然資源と、伝統こけしや寺社などの古い歴史資源、土湯温泉を始めとする豊富な温泉資源などに恵まれており、公衆浴場・足湯や遊歩道等の整備も進展していますが、これらの活用促進や周辺の観光地との連携を強化するとともに、風情ある温泉街等の街なみの保全を図るなど、滞在型の観光拠点としての一層の魅力の強化が求められています。

●道路ネットワークや駐車場の整備が必要です

国道115号の整備により、周辺地域からの交通利便性は向上しましたが、温泉地に入ると道路は狭く駐車場も不足しており、歩行者が安心して歩けるスペースや休憩所も確保されていません。また、土湯温泉から男沼・女沼等の周辺の観光スポットへ向かう道路も狭く急勾配であるため、観光客だけでなく住民にとっても不便を感じる状況にあります。

したがって、土湯温泉の道路・駐車場整備とともに、周辺の観光資源を活用するための道路・遊歩道や情報通信技術を活用したネットワーク整備が必要となっています。

●豊富な自然資源の保全と有効活用が必要です

本地区の大部分を占める山岳部には、ブナ原生林等の豊かな樹林地が広がり、男沼・女沼や仁田沼等の沼、つばくろの滝・想いの滝などの滝も数多く点在し、ミズバショウ等の植物とともに、カモシカ等の野生動物や数多くの野鳥・昆虫などが棲息しているため、この豊かな自然環境を地区のみならず市民の財産として積極的に保全することが必要です。

また、本地区は国民の保養の場としての国立公園に指定されているため、自然環境の保全に配慮しつつ、市民や観光客が身近に自然に親しめる環境づくりが必要です。

なお、地域の特色である自然等の再生可能エネルギーを活かした取組みが望まれています。

●地区の活力を維持する定住人口の確保と、災害に強いまちづくりが必要です

本地区は人口減少や高齢化が進んでおり、活力低下やコミュニティの維持が懸念されているため、空き家対策や定住人口の確保を図る必要があります。

土湯温泉周辺は荒川砂防指定地や急傾斜崩壊危険区域等に指定されているため、自然に親しむ場としての活用や自然環境との共生にも配慮した、災害に強いまちづくりが必要となっています。

(3) 地域の将来像

「こけし育む 健康・湯の里 土湯温泉」

～住んでいる人、訪れる人、みんなが行き交い、集い、笑顔と活気のあるまち～

- 温かい雰囲気のある人情豊かなまち
- 地域住民自身が防災意識を持ち、観光客にとっても、安全・安心のまち
- 国立公園の美しい自然環境を積極的に保全、活用し、豊かな自然環境を大切にするまち
- 温泉街のきれいな街並み景観を、将来の財産として守り育てるまち
- 高齢者が健康で元気に暮らせるまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 国立公園内にある土湯温泉町においては周辺の自然環境と調和した保養・滞在型の和風文化の香る温泉地づくりを目指し、温泉資源や風情ある温泉街等の保全を図るとともに、滞在・回遊環境の充実等によりにぎわいと魅力づくりを促進します。
- 土湯温泉町支所周辺は生活利便施設の誘導や、花いっぱい運動促進等による魅力ある環境づくりにより地域生活拠点としての機能充実を図ります。
- 土湯温泉においては、空き家活用や、観光地としての魅力化・活性化による雇用機会の拡大などにより、定住人口の確保を図ります。
- 生活排水処理施設の充実により、住環境の改善及び自然環境の保全を図ります。
- 吾妻連峰のブナ原生林をはじめとした山林や沼・滝等の豊かな自然を、本地区の財産として積極的に保全します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 観光客が豊かな自然・歴史資源を安全・快適に楽しめるように、また住民が安心して地域生活をおくれるように、生活・観光道路や遊歩道・ポケットパーク等の歩行者空間の整備を図るとともに、自動車交通の一方通行化や駐車場の整備について検討します。

③ その他の方針

- 国立公園の吾妻連峰のブナ原生林をはじめとした山林や沼・滝等の豊かな自然を保全するとともに、自然に親しめるよう自然環境に配慮した散策・自然学習等の環境づくりを進めていきます。
- 土湯温泉は国立公園内の国民保養温泉地として、和風文化の香る温泉地づくりを目指し、美しい景観の保全や統一化を図るなど、周囲の豊かな自然と建物やサインなどが調和した景観形成を図ります。
- 観光拠点である浄土平・吾妻小富士周辺や土湯温泉及び土湯峠付近の温泉など、地区内の観光資源の充実やネットワーク化を進めるとともに、周辺観光地との連携強化を促進します。
- ふるさとの川・荒川や東鴉川においては、砂防ダム周辺の親水公園化や遊砂地・河川敷を活用した遊歩道の充実等、豊かな自然に身近に親しめる河川空間の活用を図ります。
- 土湯温泉町は、山あいを開けた温泉街であることから、自然環境との共生に配慮しつつ、樹種を考慮した植林や砂防ダム、遊砂地等の整備により治山治水を促進し、災害に強いまちづくりに努めます。

13. 信陵地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、市域の西部に位置し東西に長い形状をしており、笹谷地区と大笹生地区で構成されています。主要幹線道路としては、主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）、一般県道折戸笹谷線、一級市道笹谷・中野線などがあります。

また、東北縦貫自動車道より分岐し、山形方面に伸びる東北中央自動車道が建設中であり、高規格幹線道路網の整備により交通利便性の向上と地域活性化が期待されています。鉄道は、東部に福島交通飯坂線が通っており、中心市街地と結ばれています。

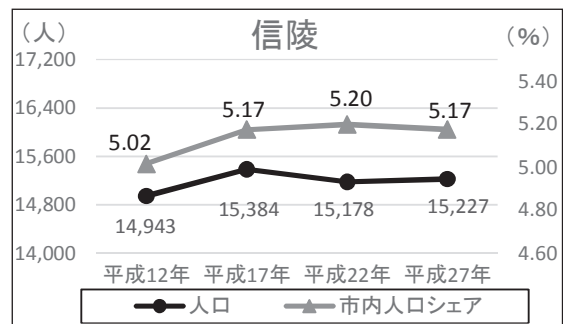
本地区の市街化区域としては、福島交通飯坂線笹谷駅・桜水駅を中心とした住宅地や福島北土地区画整理区域・十六沼公園周辺の工業系地域が指定されています。市街化調整区域・都市計画区域外は、果樹園や水田等の優良農地及び山林となっています。

フルーツライン沿線をはじめとして、果樹園が広がりモモ・リンゴ・ナシ、ブドウ、サクランボなどが特産品として栽培されており、十六沼公園、ふくしまスカイパーク、大笹生ダムなど魅力ある資源も多く存在します。

人口は、近年微減傾向にあり、高齢化率が高い地区となっています。



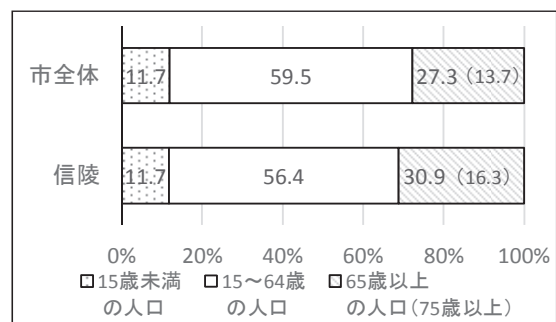
位置図



人口



塩釜神社の境内から見た田園風景
「景観100選より」



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●幹線道路の整備と、東北中央自動車道福島大笹生 IC 周辺における拠点づくりが必要です

東北中央自動車道の福島大笹生 IC は、産業振興を支える道路である主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）の交差点部に建設中であり、その周辺においては、本市の新たな産業・観光拠点として既存工業団地や十六沼公園および観光農業と連携した、計画的な拠点づくりが必要です。

また、主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）は、飯坂温泉と磐梯吾妻スカイラインなどの観光拠点や工業団地などの産業拠点を結ぶ重要な道路です。東北中央自動車道福島大笹生 IC への接続により交通量の増加も見込まれます。このため、観光・工業などの本市の産業振興を支える道路としての整備が必要です。

●住環境の整備が必要です

本地区は、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、既成市街地における生活道路や公園など住環境の充実や既存集落における自然環境との調和に配慮した住み続けられる住環境の充実を図っていく必要があります。

また、都市近郊の田園地域などでは、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●鉄道利用を促進する駅周辺の整備が必要です

地区の東部を通る福島交通飯坂線は、中心市街地と結ぶ重要な公共交通機関となっています。鉄道利用を促進するため、笹谷駅及び桜水駅周辺においては利便性の向上を図る整備が必要です。

●自然・歴史資源等の保全とまちづくりへの活用が必要です

本地区には、吾妻山系の緑や松川等の豊かな自然や果樹園、寺社等の歴史資源や十六沼公園、ふくしまスカイパークなどの特色ある資源を有しており、これら固有の自然資源や歴史資源を保全するとともに、有効に活用したまちづくりを進める必要があります。

(3) 地域の将来像

「四季折々のおいしいくだものにかこまれた、
香り豊かでにぎわいのあるまち」

- 豊かな自然環境や歴史資源を生かし、子孫に引き継ぐ美しいまち
- 災害に備え、安全で安心して生活できるまち
- 子どもや高齢者にやさしい、助け合いのまち
- 地産・地消で農家と消費者がともに手を取り合うまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 東北中央自動車道福島大笹生 IC 周辺においては、既存の工業・流通機能拠点との連携を図るとともに、インターチェンジ立地の特性を活かして、工業流通機能や地域農産物を活かした観光機能などの集積を誘導し、周辺環境と調和した計画的な市街地の検討を図ります。
- 十六沼公園は、周辺環境との調和に留意しつつスポーツ・レクリエーション機能の充実と水と緑に包まれた良好な環境形成およびアクセス強化を図ります。
- 信陵支所・信陵学習センター周辺については、地域生活拠点として、周辺環境との調和に配慮しつつ、機能充実や利便性を高める環境の充実を図ります。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 福島北土地地区画整理区域においては、緑化や美しい街なみの誘導など、ゆとりとうるおいのある良好な住環境の形成を促進します。
- 市街化調整区域や都市計画区域外においては、無秩序な開発を防止し優良農地や豊かな自然を保全するとともに、既存集落においては、生活道路の改善や身近な広場、生活排水処理施設などの住環境の充実を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 新たな広域都市交流軸としての東北中央自動車道の整備を促進します。
- 主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）は、観光・農業・工業等の産業を支える主要幹線道路として周辺の果樹園等が創出している農業景観と調和した整備を促進します。
- 鉄道利用の促進を図るため、福島交通飯坂線笹谷駅・桜水駅周辺においてアクセス性の向上や自転車駐車場の設置・踏切改良等について検討します。

③ その他の方針

- 多様なスポーツ・レクリエーションの場となっている十六沼公園は機能の充実を図るとともに、鬼越山の眺望を活かした花の名所づくりなど水と緑の拠点として利活用を図ります。
- 松川については、水と緑の軸として親水性を活かした河川敷の有効利用を図ります。
- 塩釜神社等をはじめとする寺社や歴史資源を活用した、個性的で魅力的なまちづくりに努めます。
- 地域の農業振興のため基盤整備などを進め、優良農地の保全とともに農業生産性の向上を図ります。
- 主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）沿線においては、モモ・リンゴ・ナシなどの農業特産物を利用した観光農業を振興するとともに、ふくしまスカイパークの利用を促進します。

14. 立子山地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、阿武隈川の東側、市域の東南端に位置する区域であり、阿武隈山地の一部である起伏の大きな地形となっています。

地区全域が都市計画区域外にあり、山林を中心とした土地利用となっており、地区南部の谷あいを中心に集落が点在しています。

地区の西側の阿武隈峡は、鮎滝渡船場跡や蓬萊岩などがあり、県指定名勝地となっているほか、地区の特産物として凍み豆腐が有名です。

地区全体が里山ともいえる風光明媚で自然豊かな地区を形成しており、近年花木を活かした花の里づくりや美化が進められています。

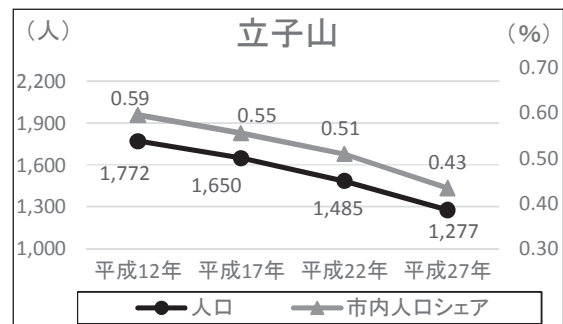
国道114号渡利バイパス等の整備により、中心市街地との交通利便性も向上しましたが、人口は減少傾向にあり、高齢者の割合が高い地区となっています。



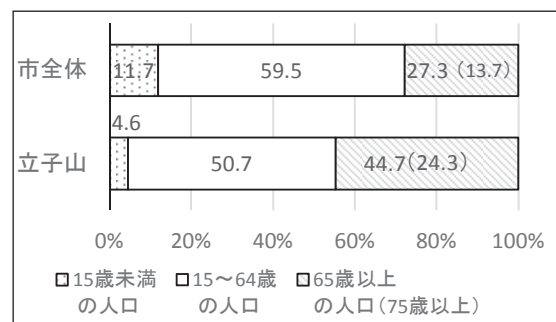
位置図



阿武隈渓谷と蓬萊岩
「景観100選より」



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●住み続けられる住環境の整備が必要です

本地区は若者の転出や子供の減少とともに、高齢化も進んでいます。今後、地域の活力やコミュニティを維持するため、地域の魅力づくりを進めるとともに、生活圏などの計画的・効率的な除染を進めながら安全で安心して住み続けられる住環境の整備が必要です。

●地域を支える道路整備が必要です

周辺地区との連携を図るため、主要地方道霊山・松川線など地区の骨格となる幹線道路の整備が必要です。

●自然・歴史資源等の保全と活用が必要です

本地区には、県指定名勝地となっている阿武隈峡や蓬萊岩、大館山などの自然資源に恵まれ、また、鮎滝渡船場跡、村上薬師堂などの歴史資源や、宿泊研修施設である立子山自然の家も立地しています。今後は、これらの資源を有効活用するために、個々の資源の保全・活用とともに、遊歩道整備などによる連携強化や一体化が必要となっています。

また、桑畑などの遊休農地や耕作放棄地の有効活用や農地の再生など、本地区に来てみたい、住んでみたいと思えるような環境整備を進め、定住促進や交流促進につなげていくことが必要となっています。

(3) 地域の将来像

「人情味のある温かい地域と遊休農地の再生や 凍み豆腐など地域の特産物を生かしたまち」

- 自然との共生を図り、地区全域が里山という特徴を生かした四季毎に彩りのあるまち
- 子どもは夢を高齢者は生きがいを持って、いきいきと住み続けられるまち
- 立子山に「来てみたい、住んでみたい」と言われるまち
- 遊休農地の再生による安全安心な農産物の生産と、凍み豆腐など地区の特産物を生かした実り豊かなまち
- 地区の史跡や文化を守り伝えていくまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 県指定名勝地であり、また水と緑の軸としても位置づけられる阿武隈峡や、大館山をはじめとする緑豊かな樹林地、山間に広がる農地などは、四季を彩る美しい自然資源として保全を図ります。
- 立子山支所周辺においては、既存公共施設などのコミュニティ・交流空間としての利活用促進を図るとともに、生活利便施設の集積誘導などにより地域生活拠点としての充実を図ります。
- 既存集落においては、地区の特性である多世代居住や高齢者に配慮した住宅改善や、福祉・医療体制の確立などにより、住み続けられる住環境への改善を図ります。
- 合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備により、良好な住環境の形成を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 地域生活を支える主要地方道霊山松川線などの骨格道路の整備を促進します。
- 地域生活拠点へのアクセス道路や、集落を結ぶ生活道路や通学路などの整備を推進します。

③ その他の方針

- 大館山・立子山自然の家周辺においては、恵まれた自然環境や鮎滝渡船場跡・村上薬師堂などの歴史資源の一体的な保全・活用を進めるとともに、これらを結ぶ遊歩道などの整備によるネットワークの形成を図ります。
- 地域の活力を維持するため、農業振興や凍み豆腐などの地域特産物を活かした活性化を図るとともに、遊休農地や耕作放棄地の有効活用を取り組みながら、定住環境と交流環境の強化を図ります。
- 既存集落においては、花木植栽や景観美化を進めるなど、花の里づくりを推進します。
- 自然環境との共生に配慮しながら、立田川・立木川などの河川改修により、安全・安心に住み続けられる地域づくりを進めます。



15. 飯坂方部のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、福島市北部の大部分を占め、山林地帯と農業地帯が広がる地区です。

地区には東北有数の温泉地として名高い飯坂温泉があり、本市の観光の名所となっています。

農業地帯においてはサクランボ、モモ、リンゴ等の果樹栽培が盛んです。

地区には、福島交通飯坂線をはじめ、本市と山形方面を広域的に結ぶ国道13号や、観光・農業・工業などの産業を支える主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）などの道路のほか、東北縦貫自動車道が通っており、国道13号との交差点部に福島飯坂ICが整備されています。

また、東北縦貫自動車道より分岐し山形方面に延びる東北中央自動車道が建設されています。

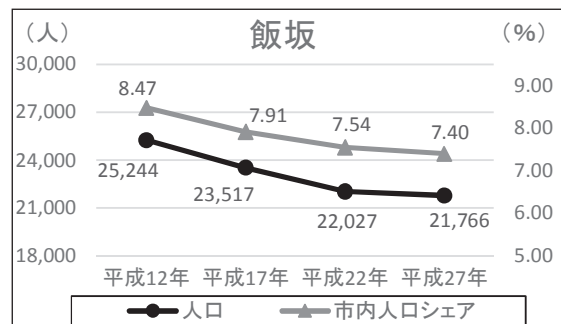
摺上川上流では、安全で良質な生活用水、農工業用水を提供する摺上川ダムが建設され、自然を生かした公園などもあり、市民の憩いの場となっています。



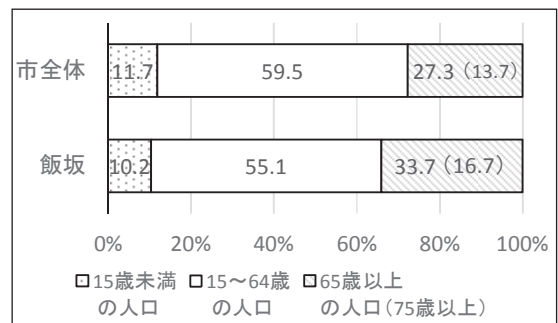
花桃の公園の古木桜とハナモモ
「景観100選より」



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●温泉まちを主体とした地区の魅力づくりが必要です

本地区の中心である飯坂温泉は、福島交通飯坂線や東北縦貫自動車道福島飯坂ICなどによりアクセスが比較的容易であることから、にぎわいを見せている地区です。今後も、温泉資源や歴史資源の有効活用に努めるとともに、その立地性と集客性を踏まえた、温泉まちとしての魅力づくりや多彩な情報を発信する取組みが必要です。

●地区の骨格となる幹線道路の整備が必要です

本地区は、古くからの観光地として幹線道路が集中しています。特に東北中央自動車道福島大笹生ICは、観光・交流人口の拡大を図る上で重要な広域都市交流軸であります。このため、観光・工業・流通など連携を強化し地区の骨格となる幹線道路の整備が必要です。

●農業による地域振興が必要です

本地区の果樹農業は、地区の産業を担うとともに観光資源としても地域振興の貴重な財産となっています。このため、農業生産地としての保全と生産性の向上を進めるとともに、東北中央自動車道福島大笹生IC、主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）を活用し、他の観光・レクリエーション拠点との連携を図るなど地域振興を進めていくことが必要です。

また、都市近郊の田園地域等では、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●住環境の充実と災害に強いまちづくりが必要です

既成市街地においては、生活利便施設の適正な配置や生活道路などにおける歩行者等の安全性の確保、身近な公園などの整備を行い、生活圈などの計画的・効率的な除染を進めながら安全・安心して住み続けられる住環境の充実が必要です。また、既存集落においては、道路や排水処理施設等の基盤整備や利便性の向上など、住み続けられる住環境の整備を行う必要があります。

本地区には、砂防指定地や急傾斜崩壊危険区域、地すべり防止区域等に指定されている地区があるため、自然環境との共生に配慮した災害に強いまちづくりが必要です。

●自然環境と歴史資源を保全・活用したまちづくりが必要です

本地区北部の山間部は、水源かん養にも寄与する山林や、ニホンカモシカ・ツツジなどの動植物が見られるなど豊かな自然環境を有しているため、これらを保全・活用していく必要があります。

また、摺上川ダム周辺においては水と緑に親しめる環境として整備をしていくことが求められています。さらに本地区には、鯖湖湯・医王寺などの豊富な歴史資源が残されているため、これらを観光資源として活用したまちづくりが必要です。

(3) 地域の将来像

自然と観光、温泉、特産物等を生かし、地域全体がいきいきと輝き、
魅力あふれるもてなしの心とくつろぎのあるまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 飯坂温泉においては、観光拠点として道路・下水道などの基盤整備や防災対策の充実、バリアフリー化、サイン表示などの整備を促進することにより、観光客の利便性の向上とともに既存コミュニティの維持を踏まえた住み続けられる住環境の向上を目指します。
- 飯坂温泉駅や飯坂支所を含む地域と茂庭出張所周辺を地域生活拠点として位置づけ、機能の誘導やアクセス道路の充実を図ります。
- 飯坂・湯野や医王寺前駅・平野駅周辺などの地域生活拠点においては、未利用地などの宅地化の誘導や空地・空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活利便施設の誘導と生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。
- 十六沼公園は、周辺環境との調和に留意しつつスポーツ・レクリエーション機能の充実とアクセス強化を図ります。また、十六沼公園など周辺環境と調和した良好な工業系市街地の形成を図ります。
- 福島飯坂 IC 周辺については、工業・流通機能拠点としての機能充実とともに、緑化など環境改善により住宅と工業系施設が共存する市街地形成を図ります。
- 市街化調整区域や都市計画区域外については、無秩序な開発を防止し果樹園や水田などの優良農地や山林などの保全を図るとともに、既存集落においては道路、生活排水処理施設、身近な広場などの整備により良好な住環境の形成を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 新たな広域都市交流軸としての東北中央自動車道の整備を促進します。
- 主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）は、観光、農業、工業などの産業振興を支え東北中央自動車福島大笹生 IC と飯坂温泉や他の観光拠点を結ぶ主要幹線道路として整備を促進します。
- 地区の骨格をなす国道399号、（都）国道399号線などについては、適正な交通処理と歩行者などの安全性に配慮した整備を促進します。また、国道13号の鉄道交差部の立体化について検討します。
- 鉄道利用の促進を図るため、福島交通飯坂線の駅周辺においてはアクセス道路や自転車駐車場の整備、踏切改良について検討します。

③ その他の方針

- 奥の細道に縁のある医王寺、大鳥城址、八幡神社、旧堀切邸など地区固有の歴史資源を保全活用し観光・レクリエーション機能の充実を図ります。
- 摺上川ダムは、県北地域の生活・農業・工業・灌がい用水の重要な水資源として、周辺の水源かん養林の保全に努めます。

- 摺上川ダム周辺においては、新たな観光・レクリエーション機能拠点、水と緑の拠点として親水空間や交流施設の整備が図られ、自然歴史資源など地域特性を活かし交流環境の充実を図ります。
- 主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）は、果樹園などの農業景観と調和した水と緑の軸（道路）として整備を促進します。
- 摺上川・小川は良好な自然環境を保全するとともに、親水性を活かした整備を促進します。
- 地域農業振興のため農業基盤整備を進め、優良農地の保全とともに農業生産性の向上を図ります。



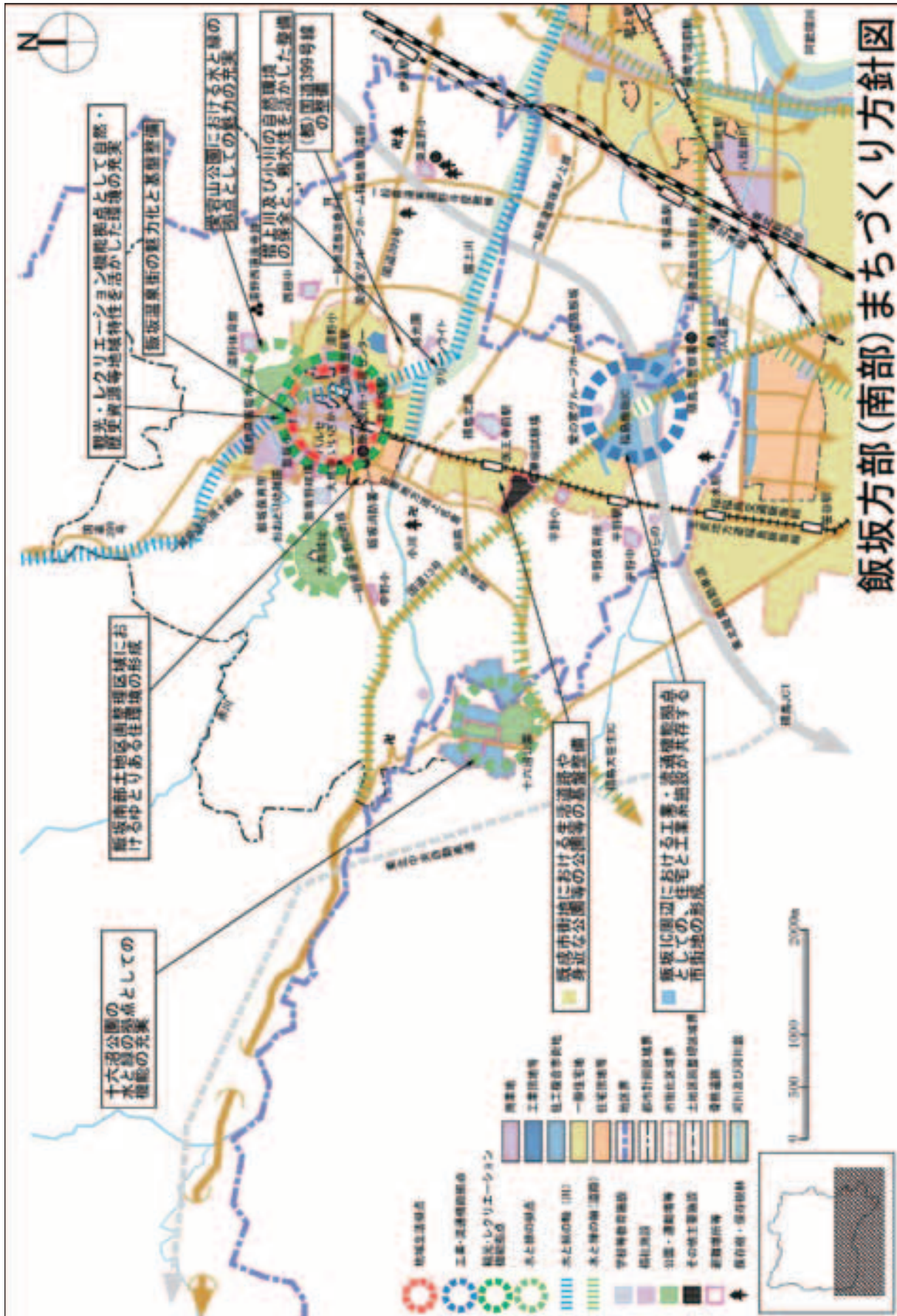
復元された旧堀切邸
「景観100選より」



飯坂温泉 波来湯



歴史ある天王寺
「景観100選より」



(2) 地域の主要課題

●自然、歴史的資源を保全・活用したまちづくりが必要です

本地区には、めがね橋等の歴史的史跡や祭り等の伝承文化、江戸時代の宿場町としての街なみ等の歴史的資源が残されています。また、市街地周辺にはのどかな田園風景と豊かな水と緑の自然が広がっており、花をテーマにした景観美化や観光交流の展開も進展しています。

このため、これらの自然や花、歴史資源を保全・活用しつつ商店街や農村地帯の活性化、街なかにぎわいの創出につなげていくことが必要です。

●福島学術研究拠点などの拠点機能を生かした地域の一層の活性化が必要です

福島大学や県立医科大学、同附属病院が立地する福島学術研究拠点における研究・業務・医療・福祉などの機能の充実や、松川工業団地への企業誘致の促進など、一層の地域活性化が期待されています。

拠点を活かした地域活性化を推進するため、国道13号福島西道路の南伸や福島松川スマートICの周辺道路整備等の促進が必要です。

また、主要地方道土湯温泉線等東西方向の幹線道路については狭隘箇所や渋滞箇所もみられるため歩行者・自転車にも配慮した整備が望まれます。

●住環境の改善が必要です

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、宿場町跡や松川駅を核とする既成市街地においては、狭隘道路など基盤が未整備な状況が見られるため、安全性や防災性、快適性に配慮した住環境の整備を行い、残存農地の宅地化の誘導・空き地などの低未利用地や空き家などの活用を図るなど、住環境の改善が必要です。

(3) 地域の将来像

- 歴史や文化、豊かな自然と農業が調和した潤いのあるまち
- 安定した雇用と、安全・安心な住環境の整備されたまち
- 多彩な風土からの地域資源、観光資源の有効活用によるにぎわいのあるまち
- 地域ぐるみで助け合い、子どもの笑い声が聞こえる、健康で生きがいのあるまち



めがね橋と周辺の緑
「景観100選より」

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

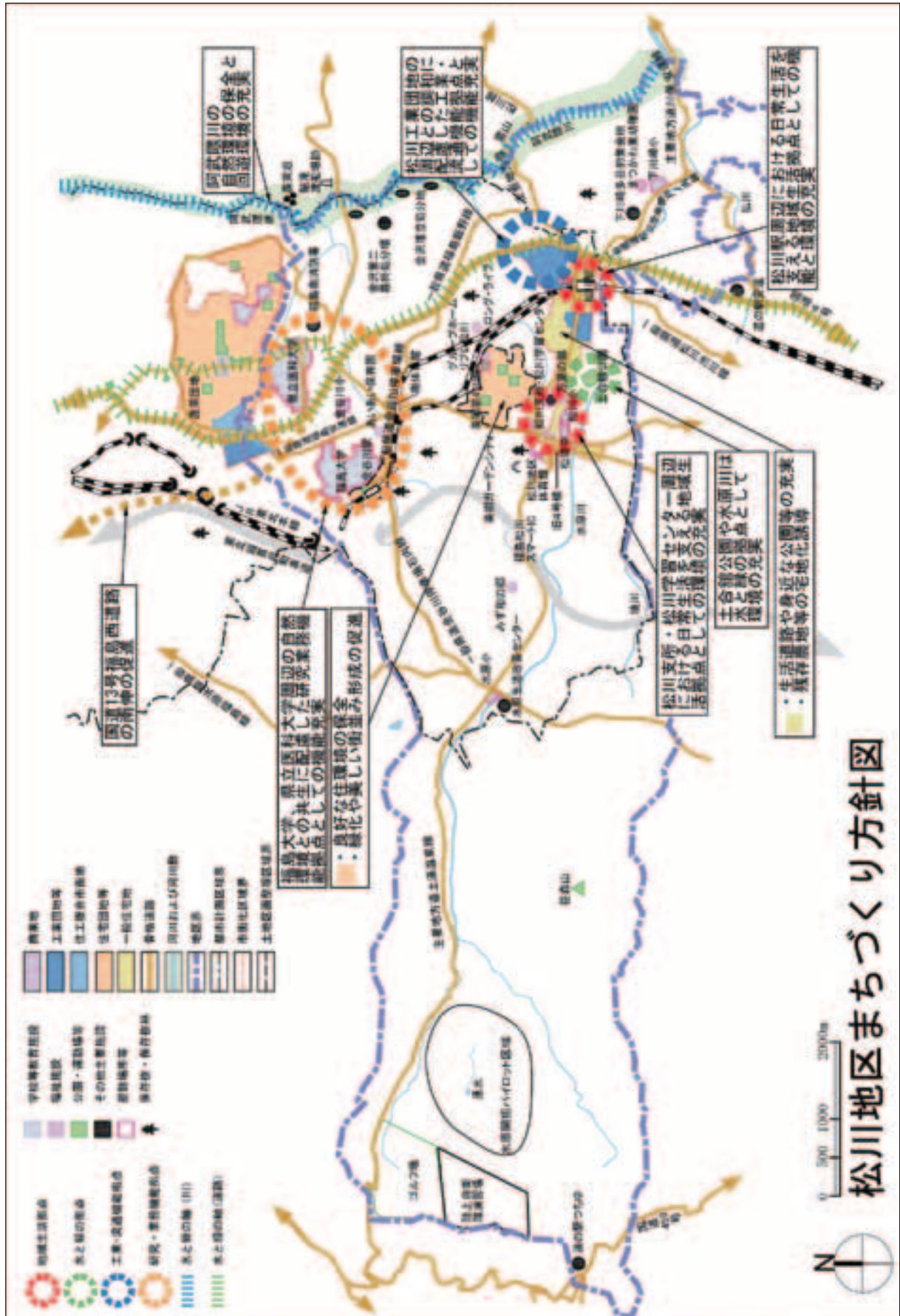
- 高度の教育医療研究機関が集積する福島大学・県立医科大学等の周辺地域は、研究・業務機能拠点として広域交通体系と連携し、自然環境との共生に配慮した機能充実を図り、地域活性化を担う新たな拠点づくりを検討します。
- 松川支所周辺地区と、松川駅周辺地区は地域生活拠点として、利便性を高める環境の充実とともに、市街地における地域の日常生活を支える商業機能等の充実を進めます。
- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空地・空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。また、計画的に整備された美郷ガーデンシティにおいては、建築協定により、ゆとりとうるおいのある良好な住環境の形成を図ります。
- 松川工業団地は、地区計画に基づき周辺住宅地との調和に配慮した、職住近接型の工業・流通機能拠点として企業誘致を推進します。
- 市街化調整区域や都市計画区域外については、優良農地や自然環境の保全に努めるとともに、既存集落においては生活道路・広場・生活排水処理施設などの充実により住環境の改善を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 市中心部との道路交通の利便性を確保するため、国道13号福島西道路の南伸を促進します。
- 福島大学・県立医科大学が立地する学術研究拠点や松川工業団地の工業拠点などとの広域連携機能を強化するため、東北縦貫自動車道福島松川スマートICへのアクセス強化・利便性向上のための周辺環境整備を図ります。
- 周辺地区と連携し、また、地区の骨格道路となる主要地方道土湯温泉線、一般県道霊山松川線の幹線道路の整備を促進します。
- 鉄道利用を促進するため、東北本線松川駅・金谷川駅については、利便性の向上やアクセスの向上、バスなどとの連携強化を図ります。

③ その他の方針

- 奥州街道八丁目宿場跡や八丁目城址などの歴史資源を活用して、歴史資源を結ぶ回遊ルートとの環境の充実や街なみの誘導などにより個性的で魅力的なまちづくりに努めます。
- 蓬莱岩・鮎滝渡船場跡などを含む県指定の名勝地阿武隈峡においては、水と緑の軸として豊かな自然資源・歴史資源を保全・活用するとともに、回遊環境の充実により自然と親しむレクリエーションゾーンの形成を図ります。
- アジサイで有名な土合館公園は、緑の拠点として活用を図ります。また水原川については、桜並木の保全やめがね橋周辺と連携しつつ、親水環境の充実を図ります。



松川地区まちづくり方針図

17. 信夫地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は市の南部に位置し、地区の北東部は平坦地であり、南西部は緩やかな山林となっており、地区内には大森川・濁川・平田川等の一級河川が流れています。

杉妻・吉井田両地区と連担した大森地区や東北本線の南福島駅を中心とする市街地と、北部の東北縦貫自動車道福島西IC周辺の住工複合市街地や大規模住宅団地が市街化区域に指定されています。

市街化調整区域には耕地整理による優良水田地帯が広がり、都市計画区域外においては、山間の農地や緑豊かな山林地帯となっています。

地区北端を国道115号が、地区東側を国道4号が通っており、一般県道南福島停車場線や国道13号福島西道路南伸の整備及び一般県道水原福島線等の幹線道路交通の整備により市内外からのアクセスの向上が期待されます。

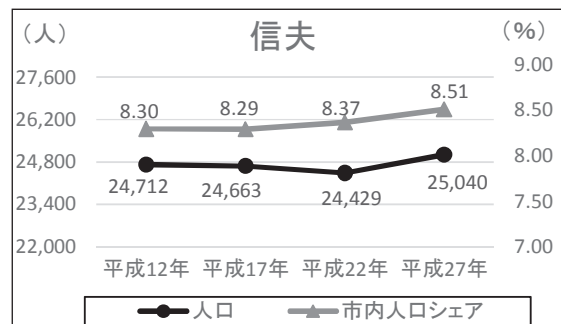
また、県指定重要文化財を所蔵する陽林寺や好国寺座禅堂、石那坂古戦場碑などの歴史ある資源が残されています。



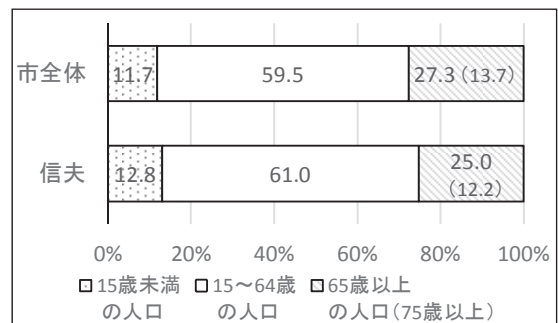
大森城山公園の桜と吾妻連峰
「景観100選より」



位置図



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●安全で快適な定住環境の充実が必要です

本地区の南北を結ぶ国道13号福島西道路や東西を結ぶ一般県道南福島停車場線などにおいては、周辺地区からの交通が集中するため、交通渋滞が見られ地域生活に支障を生じています。このため、地区の骨格を形成する道路の整備や歩行者等の交通安全対策が必要です。

また、本地区の市街地周辺においては、浸水危険区域に指定されているため、水害に強いまちづくりが必要です。

●良好な住環境の形成と適正な土地利用の誘導が必要です

生活圏などの計画的・効率的な除染を進めるとともに、既成市街地の防災性・快適性の面で課題が見られる地区においては、生活道路や下水道などの住環境の充実を図っていく必要があります。

また、東北縦貫自動車道福島西 IC 周辺は、広域的な交通利便性の高い地区として、隣接する佐倉西工業団地とともに、工業・流通機能拠点として位置づけられています。しかし、工業・流通施設や住宅・農地等が混在する市街地となっているため、適正な土地利用誘導が必要です。

なお、都市近郊の田園地域等では、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●豊かな自然環境や歴史資源を活用したまちづくりが必要です

南西部の丘陵地帯に広がる山林には美しい自然林が残されており、サル・リス等の小動物やホタルも生息しています。平坦地においても、四季を彩る果樹園や緑の田畑とともに、大森城山公園・高倉山等の社寺林の緑、あるいは名水が湧き出る大清水など豊かな自然資源が多く残されています。

また、地区内には大森城址を始め、伊達氏ゆかりの陽林寺・好国寺等の社寺や宿場町としての街なみなど、本地区の歴史を伝える史跡が数多く残されています。このため、豊かな自然環境や歴史資源を市民の財産として守り継いでいくとともに、地域の個性・魅力や交流あふれるまちづくりに活かしていく必要があります。

(3) 地域の将来像

- 歴史が偲べ、花も緑も豊かなまち
- 「結いの精神」（協力、調和）に満ちあふれるまち
- みんなが集い、交流し、笑顔があふれ、若者も喜んで住めるまち
- 安全・安心で便利なまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。また、大森土地区画整理区域においては、地区計画によりゆとりとるおいのある良好な住環境の形成を図ります。
- 市街化調整区域や都市計画区域外の地域においては、無秩序な開発を防止し優良農地や豊かな自然環境の保全に努めるとともに、既存集落においては生活道路の改善、農業集落排水整備事業・生活排水処理施設など住環境の充実を図ります。
なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 計画的に整備されたしのお台ニュータウン等の大規模団地周辺については、住環境・自然環境の保全や周辺環境との調和を図ります。
- 信夫支所周辺や南福島駅周辺については、地域生活拠点としてアクセス道路等の整備を推進するとともに、生活利便施設の誘導を図ります。
- 福島西 IC 周辺は、広域交通利便性の高い工業流通機能拠点としての機能の充実を図るとともに、住工複合市街地においては、緑化の推進や排水施設の整備等により周辺の住環境や農業生産環境との共生を図ります。
- 国道115号沿道については、水と緑の軸（道路）として沿道景観に配慮しながら、日常生活を支え中心市街地の機能を補完する沿道商業地として、無秩序な拡大を防止しつつ商業機能の適正な配置を誘導します。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 市の主要な幹線道路である国道13号福島西道路の南伸を促進します。また、一般県道南福島停車場線については、国道4号と接続する幹線道路として整備を促進します。
- 地区内と中心市街地や国道4号を結び、また交通の分散化や渋滞緩和を図るため、都市計画道路太平寺岡部線などの地区の骨格となる幹線道路の整備を図ります。
- 地区内への通過交通増加に伴う歩行者・自転車等の安全確保のため、歩道整備や自転車利用実態を踏まえた自転車利用環境の充実を進めていきます。
- 地区南部と国道4号を結ぶ東西方向のアクセス道路について検討します。
- 鉄道・バス等の公共交通利用を促進するため、東北本線南福島駅へのアクセスの向上、鉄道・バスなどと相互の連携強化を図り、高齢者に配慮した公共交通手段を検討します。

③ その他の方針

- 旧宿場町としての大森地区や伊達氏縁の地である城山周辺地区等については、歴史資源を活かし、個性的で魅力的なまちづくりに努めます。
- 大森城山公園周辺については、市民に親しまれる緑の拠点として整備を図ります。

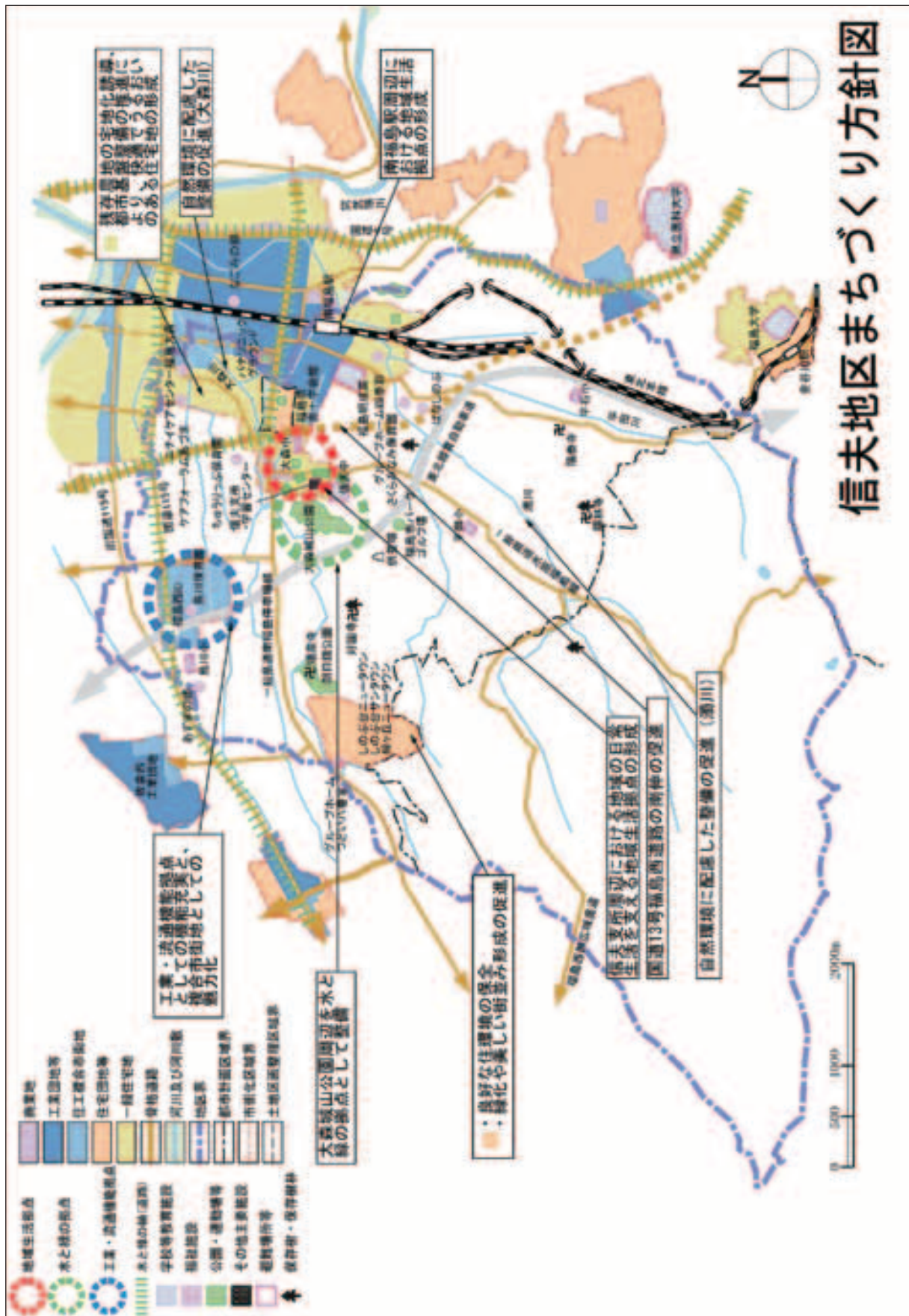
- 濁川や大森川等の河川については、自然環境に配慮した河川改修等により水害に対する安全性を高めるとともに、堤防を利用した桜並木の形成や歴史資源を結ぶ散策路など、市民に親しまれる環境の充実を図ります。
- 地域農業振興のため優良農地の保全とともに後継者の育成と農業生産性の向上を図ります。
- 地域内の既存資源を有効活用し、遊歩道、案内標識の充実や、花を活かした環境・景観の美化等を進めることにより、交流人口の拡大を図ります。



点在する集落の古民家
「景観100選より」



陽林寺の山門と周辺の自然
「景観100選より」



18. 吾妻地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、市の西部に位置する市域面積の15%を占める広い地区です。中心市街地とは、奥羽本線や主要地方道福島・吾妻・裏磐梯線の道路によって結ばれています。このほかにも、主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）や西部広域農免道路等が南北に通っています。

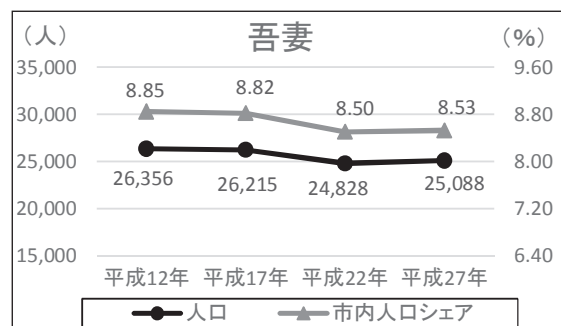
市街化区域としては、市の中心部と隣接した土地区画整理区域や笹木野駅及び庭坂駅を中心とした既成市街地と南部の福島西工業団地が指定されています。市街化調整区域及び都市計画区域外は、農地あるいは磐梯朝日国立公園にも指定されている山林地帯となっています。

観光資源としては、高湯温泉・微温湯温泉・吾妻高原スカイランド・磐梯吾妻スカイライン等がありますが、この他にも旧米沢街道石畳跡・李平宿場町跡や清水観音・白津観音等の歴史資源も見られます。

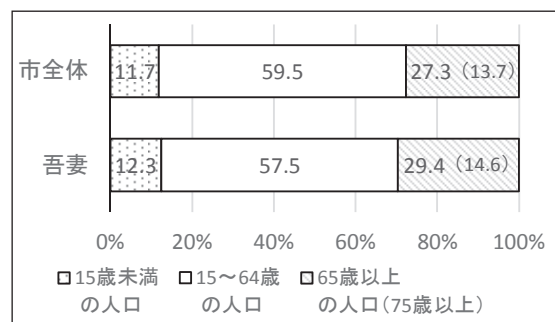
また、磐梯朝日国立公園の一角をなす吾妻連峰の雄大な自然と市を代表する河川である清流荒川・天戸川をはじめ、松川・須川など河川がもたらす豊かな生態系にあふれ、隣接地区にはあづま総合運動公園も整備されています。



位置図

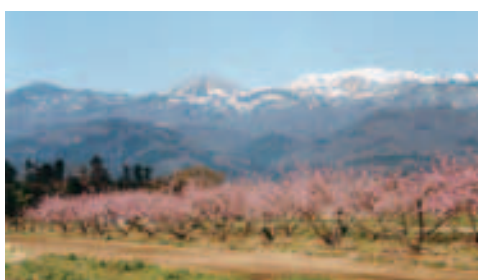


人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）



上野寺から見た桃畑と吾妻連峰
「景観100選より」



民家園の古民家と豊かな自然
「景観100選より」

(2) 地域の主要課題

●観光と農業の連携による地域の活性化が必要です

本地区は、磐梯吾妻スカイラインが整備され、周辺には高湯温泉・微温湯温泉や吾妻高原スカイランドなどの多くの観光資源が集積しているほか、地区南部の荒川沿いの隣接地区にはあづま総合運動公園も整備されています。また本地区には、農産物直売所やモモ・ナシ・リンゴなどの観光農園も多く、市の休憩施設「吾妻の駅こころ」などがあり、これらの資源を有効に活用するとともに、主要地方道上名倉・飯坂・伊達線（フルーツライン）等を活用したネットワーク化等により、観光・レクリエーション機能の充実を図ることが必要です。

都市近郊の田園地域等では、後継者不足による耕作放棄地の増加などにより、既存集落の活力低下や地域社会（コミュニティ）の衰退が懸念されています。

●住環境や生活基盤の充実が必要です

土地区画整理事業が行われていない既成市街地においては、生活道路や生活排水処理施設など住環境の改善を図るとともに、市街化調整区域内の既存集落においても、基盤整備や利便性の向上を図ることにより、住み続けられる住環境の整備を図ることが必要です。

また、生活圏における計画的・効率的な除染を進めるとともに、安全・安心して住み続けられる住環境の充実が必要です。

奥羽本線笹木野駅及び庭坂駅周辺は、高い交通利便性がありながら、これを活かした機能整備が不十分な状況にあります。このため、これらの駅周辺において地域住民の日常生活を支える機能の充実を図る必要があります。

本地区は、隣接するあづま総合運動公園や工業団地整備にあわせて、主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）などの道路整備が行われてきましたが、本地区と中心市街地とを結ぶ東西方向については、整備が不十分な状況が見られるため幹線道路の整備が必要です。

●地域の自然環境・歴史資源の保全と活用が必要です

本地区の西部は、豊かな自然を擁する山林地帯であり、本市のシンボルである吾妻小富士を中心とする吾妻連峰は磐梯朝日国立公園に指定されています。また本地区には、旧米沢街道石畳跡・李平宿場町跡や清水観音・白津観音などの豊富な歴史資源も残されています。

このため水源や景観の資源ともなるこれらの豊かな自然資源や、歴史的名所・旧跡を保全・活用していくことが必要です。

(3) 地域の将来像

「歴史と創造、やすらぎと活力が調和するまち」

- 自然に抱かれた心豊かなまち
- 歴史に根ざしたやすらぎのまち
- 農業と観光、地域と企業が連携した活力溢れるまち
- 生活環境が整った住みやすいまち

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 既成市街地においては、未利用地などの宅地化の誘導や空き家などの既存ストックを活用するとともに、生活道路や下水道及び身近な公園などの充実により、安全性・防災性・快適性に配慮した住環境の向上を図ります。また、住工複合市街地においては、緑化等により住宅と工業施設が共存する環境の形成を図ります。
- 福島西土地区画整理区域においては、地区計画に基づき、ゆとりと潤いのある良好な住環境の形成を図ります。
- 市街化調整区域や都市計画区域外においては、無秩序な開発を防止し優良農地や良好な自然環境の保全に努めるとともに、既存集落においては、周辺の自然環境との調和に配慮しながら道路や生活排水処理施設など、住み続けられる住環境の充実を図ります。なお、市街化調整区域においては、適正な土地利用の誘導と地域活力の向上、地域社会（コミュニティ）の維持・再生を検討します。
- 奥羽本線笹木野駅周辺地区及び庭坂駅周辺地区においては、地域生活拠点として地域住民の日常生活を支える機能や交通環境などの充実を図ります。
- 福島西工業団地においては周辺環境との調和に配慮して、工業・流通機能拠点としての機能充実を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 本地区と中心市街地を結ぶ一般県道庭坂福島線（庭坂街道）、主要地方道福島吾妻裏磐梯線（高湯街道）等の幹線道路については、歩行者・自転車にも配慮した整備を促進します。
- 磐梯吾妻スカイラインを始め、東北中央自動車道に接続する主要地方道上名倉飯坂伊達線（フルーツライン）は、地区内外の観光資源等をつなぐネットワークを形成する主要幹線道路として整備を促進します。また、水と緑の軸として周辺環境と調和した良好な景観形成を図ります。
- 吾妻支所、吾妻学習センターへの利便性向上のための交通環境の充実を図ります。
- 鉄道の利用促進を図るためバスとの連携を促進するとともに、歩行者・自転車ネットワークの整備により、利便性・安全性の向上を図ります。

③ その他の方針

- 高湯温泉や吾妻小富士・浄土平等は、磐梯朝日国立公園となっており、美しい自然を保全するとともに、観光・レクリエーション機能拠点として、周辺環境との調和に配慮しながら、機能充実を目指し、萱場ナシなどの地元の農業特産物や歴史資源等の活用も図ります。
- 観光・レクリエーションやスポーツの拠点として、隣接するあづま総合運動公園や民家園・四季の里の利用促進とともに、これらを結ぶネットワーク化を促進します。
- 水と緑の軸である、豊かな自然環境を有する清流天戸川や荒川等においては、良好な自然環境を保全するとともに、親水性を活かした整備を促進します。

19. 飯野地区のまちづくり方針

(1) 地域の概況

本地区は、本市の南東部にあり、自然豊かな阿武隈山系の丘陵地帯にあり、千貫森や天井山、阿武隈峡など景観に優れたところが多く、地域全体が里山のような雰囲気を醸し出しています。

古くから養蚕と織物業で栄え、商業が発展してきた地域です、近年は、UFO の話題で全国的に有名であり、飯野堰堤とその周辺の桜、国の史跡指定を受けた和台遺跡など、観光と縄文時代のロマンあふれる歴史資源などが豊富な地域です。

全域都市計画区域外となっており、恵まれた自然環境の中で、ゆとりとやすらぎを実感しながら生活できる、快適で良質な住環境を有する地域を形成しています。



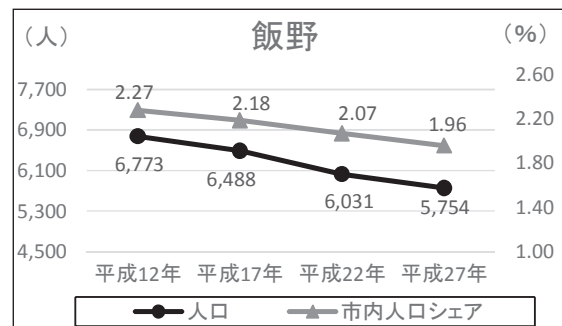
位置図



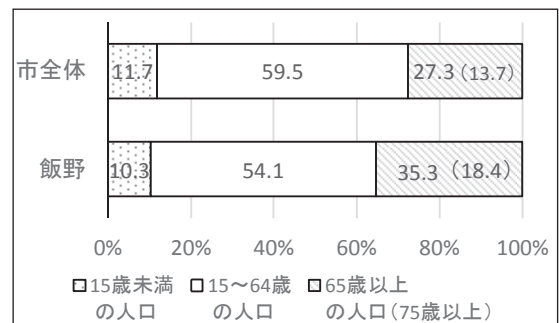
飯野堰堤と周辺の桜
「景観100選より」



飯野土蔵
「景観100選より」



人口



年齢構成

資料：国勢調査（平成27年10月1日）

(2) 地域の主要課題

●住み続けられる居住環境の充実が必要です

人口減少、少子高齢化が一層進む中であって、地域の活力やコミュニティを維持するため、高齢化に対応した暮らしやすい居住環境の充実や、支え合い安心を確保する体制の充実、空き家・空き地及び休耕地の活用を行い、若者の地元定着の促進を図っていく必要があります。

また、周辺地区との連携を図るため、骨格となる幹線道路や生活圏などの計画的・効率的な除染を進めながら安心して住み続けられる居住環境の整備が必要です。

●自然・歴史等の地域資源の保全と活用による交流さかんなまちづくりが必要です

本地域には、千貫森、阿武隈峡などの自然環境・里山環境や、和台遺跡や近代産業遺産、各地区の個性あるまちづくりのシンボルでもあるミニ公園など、地域の魅力を構成している自然・歴史資源などとともに、つるし雛まつりなどの伝統行事、UFOの里としてのイベントなど様々な取組みが行われ、それら資源の保全と積極的な活用を図り、次世代に継承していくとともに、地域の活性化や交流促進につなげていく必要があります。

●農業・商工業等の振興が必要です

定住促進を図るためには、空き店舗や休耕地などを活用しつつ、商店街の活性化や、農業の再興など、賑わいの強化や地域産業の振興、雇用創出を図っていく必要があります。

(3) 地域の将来像

「人と地域が輝く 快適空間 いいの」

- 一人ひとりがいきいきと暮らし、笑顔にあふれる、人が輝くまち
- 人情味豊かで郷土を愛する人々が協働してつくる、地域が輝くまち
- 豊かな自然に抱かれて、花も実も香りも添える、快適なまち
- 縄文の夢と UFO ロマンの交差点、雛も導くわくわくドキドキの里に、集いふれあう快適なまち



飯野街並み
「景観100選より」

(4) 地域のまちづくり方針

① 土地利用の方針

- 飯野支所周辺地区については、地域生活拠点として、住民の日常生活を支える公共公益施設などの機能の維持を図るとともに、空き店舗などを活用した起業支援や、飯野学習センター、ミニ公園などの交流・生涯学習施設などを結ぶ主な通り沿いを花いっぱい運動などにより美化を進めるなど、魅力ある拠点地域づくりを進めます。
- 周辺の良い自然環境の保全を図るとともに、担い手の育成・確保を含めて、農地の維持・再生を進めます。
- 各集落においては、遊休農地を活かした地域農園の整備や生活道路の充実などを図るとともに、空き家などを活用したコミュニティの維持再生に努め、合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備により生活環境の改善を図ります。
- 生活圏などの計画的・効率的な除染などにより、原子力災害からの復興を進めます。

② 道路・交通の方針

- 地域内外を連絡する主要な幹線道路主要地方道霊山松川線などについての整備を促進します。また、集落を結ぶ生活道路の整備や、集落内の歩行者などの交通安全対策を進めていきます。
- 地域内を走るバス交通について、利用促進を図るとともに、高齢化の進行を見据えた協働による地域公共交通システムのあり方について、検討を進めていきます。

③ その他の方針

- 地域内の名所旧跡やミニ公園を活かしつつ、それらを結ぶ回廊のネットワーク形成を進めるとともに、遊休農地の活用や、環境美化運動と連携しつつ、花いっぱい運動の活性化や、香木の植栽など、里山の魅力ある景観形成や散策・回遊魅力の強化を図ります。
- 東北地方南部における最大級の縄文集落跡である和台遺跡や、旧国鉄川俣線跡地や繊維工場跡などの近代の産業遺産の保存と活用を進めていきます。
- 飯野支所については、利便性の向上を図るためバリアフリー化や施設改修などを検討します。
- 宮川については、継続的な河川改修を進めていきます。



天井山からの眺め
「景観100選より」

